

		<p>九月八日元給仕大善丸犯罪取調に關し鈴木信比古浅井久中野周次郎の三名は米町警察署へ召喚せられ出納に關する諸帳簿の検査を受けたり係官は此の帳簿複雑にして簡明を欠き委員の疑を招く甚となり金の円満を欠くことあらば甚だ遺憾なりとす愛知県神職会は極めて必要の団体なれば益々發展せしめらるゝを要む諸君は十分尽力整理して會員に安心を与へ協同一致本会の基礎を固むべしと諭せられたり</p> <p>九月十日理事會を開き帳簿整理に付き協議をしたり</p> <p>九月十八日元神職取締所委員會を開き善後策を協議す</p> <p>九月十八日午後一時泉行より大嘗祭御當日各神社に於て執行する祭典に要する祭員補充の件に付御談示ありたり</p>				
	本会録事	<p>会告</p> <p>一主礼申請書ニシテ本礼典部祭式修了證書ヲ添付セシモノハ典禮ノ証明ヲ要セス単ニ證書ヲシテ各都府神職會ニ送付スルコト</p> <p>一主礼辭令ハ本會ヨリ各都府神職會ニ送付シ都府神職會長ヨリ交付シ證書ヲ撤スルコト</p> <p>一主礼義務金ハ都府神職會ニ取進メ本會へ送付スルコト</p> <p>一典禮印刷ハ都府神職會ニ於テ左ノ形式ニ於テ左ノ形式ニヨリ調製スルコト</p> <p>六分角 都府神職會之印</p> <p>一都府内一般神職ニ對シ此際典禮指揮ノ下ニ祭式作業講習ヲ開キ其模様ヲ本會へ報告スルコト</p> <p>右各項ノ通り取扱ハレタシ</p> <p>愛知県神職會</p> <p>各都府神職會御中</p>				
	墓地管理規則	<p>一本會ノ所有ニ係ル墓地ハ規定ノ料金を納付スルハ勿論神式ヲ以テ葬儀ヲ執行スル者ニ限リ貸与ス</p> <p>二當墓地へ埋葬セントスル時ハ埋葬届ヲ差出し本會ノ證書ヲ受クヘシ</p> <p>三當墓地へ埋葬スル時ハ本會墓地管理規則ニ拠リ管理人ノ指揮ヲ受クヘシ</p> <p>四埋葬ノ際隣隣者ノ生シタル時ハ本會ノ承認ヲ得テ伐採スルコトヲ得</p> <p>五墓地ニ碑ヲ建テ又ハ工作物ヲ設ケタル時ハ管理人ノ立會ヲ乞フヘシ</p> <p>六現任神職ニ對シテハ料金を額ノ半額以テ貸与ス但シ或埠以内ニ限リ</p> <p>七区長町村長ノ赤符者タル証明書を添付セル赤符者ニハ無料貸与ス但シ四半坪ニ限リ</p> <p>八墓地管理人ニ對シテ手当トシテ借受人ヨリ一戸ニ付毎年金拾錢ツハ給与スルコト</p>				
	墓地使用願					
	墓地貸与証					
	墓地使用料表					
	今回都府神職會を左の通り命せられたり					
	養成部録事	<p>九月一日より今回移転せし取所に於て授業を開始す養成部移転と同時に生徒寄附金南區祭田町字五ノ井に預け寄附金を収容す</p> <p>電車賃銀兩目を基而上り電車賃道金計へ交渉ありたく九月十日付出席せり</p> <p>八月廿六日午後二時本所講堂に於て祭式検定祝詞試験合格者に対し證書授与式を行ふ合格者氏名左の如し</p>				
267	大正4年10月25日	<p>明治天皇御製</p> <p>昭建皇太后御歌</p> <p>明治天皇御即位宣言</p> <p>同壽詞</p> <p>明治天皇大嘗祭祝詞(本政大臣祝詞)</p> <p>御大禮奉祝の真意書</p> <p>神皇正統記の真意書</p> <p>神道の宗教的要素の一節</p> <p>ト占果論の一節</p> <p>他山の石</p> <p>玉あられに</p> <p>故妻拾遺(つゞき)</p> <p>始々</p> <p>梅園讀書抜録 明治二十五年三月稿</p> <p>万葉集は斯く研究せられたり(つゞき)</p> <p>書話鈔</p> <p>百人一首略解(つゞき)</p> <p>神社号所在地抄記(続)</p> <p>風雲草の功徳</p> <p>八事山神聖地由來</p> <p>第三種字附試験問題(つゞき)</p> <p>祝神書及祝詞の内訓</p> <p>御大典祝の終業書</p>				
	論説		河野高秀	目黒和三郎		
	学説		池野英介	池野英介		
	雑録	大麻の原由并功徳	大木雪城	東春 松園主人		
	法令	大嘗祭奉幣及幣帛供進二付神社局より九月七日を以て左の如く各地方長官に通知せられたり <p>新嘗祭禁止の旨九月十三日内閣告示第四号を以て公示せられたり</p> <p>幣額を購はるべき有位幣額者届出方九月三十日付本県告示第三百十七号を以て公示せられたり</p> <p>神額幣帛料を供進し得る指定神社九月二十二日付告示第三百三十三号を以て公示せられたり</p> <p>三島三嶋方法</p> <p>惠類降伏御祈祝詞(続)</p> <p>三河三十六歌(つゞき)</p> <p>鴨川集(つゞき)</p> <p>詠草</p> <p>十月分 兼題「禁庭菊」</p> <p>十月分 兼題「鏡」</p> <p>九月兼題</p> <p>依紀宮田重務所</p> <p>依紀宮田重務所</p> <p>天長節御祭典</p> <p>賢所奉還予行演習</p> <p>宋元十二月五日京都に於て臨時全國神職大會</p> <p>丹羽郡神職會</p> <p>福豆郡神職會</p> <p>知多郡神職會</p> <p>海部郡神職會</p>	大嘗祭當日奉幣に關する件	内閣告示第四号	告示第三百十七号	告示第三百三十三号
	文苑		池野英介	松浦茂方		
	雜報					
	各都府通信					
	本会録事	<p>本月八日野々山 鈴木 中野 神山等本會に會合し種々打合</p> <p>本月十日新愛知新聞社へ同新聞市内附録に記載せる名古屋神職會對本會に關する記事中事實相違の点ありたるに付取消を依頼せり</p> <p>来る十二月五日京都に於て臨時全國神職大會開催に付出席希望者取調方を各都府神職會へ依頼す</p>				
	養成部録事	<p>養成部生徒一同は講師引率の下に近々遠足運動をなす書</p> <p>講師大木氏は知多郡神職會の招聘に應じ不日祭式作業講習の爲二日間出張する當</p> <p>本月十六日熱田神宮政所内養成部教壇に於て祝詞式試験を行ふ</p> <p>神職補充</p> <p>正語</p> <p>大隈伯の養生訓</p> <p>金原明善翁幼時の心得</p> <p>橘千蔭</p> <p>南設楽郡</p> <p>豊橋市</p> <p>濱美郡</p> <p>即位礼及大嘗祭祝詞正語</p>				
268	大正4年11月25日	<p>天皇陛下御製</p> <p>皇后陛下御歌</p> <p>御即位の勅語</p> <p>総理大臣書詞</p> <p>御大禮奉祝の辞</p> <p>御大禮に關する儀式の概要</p> <p>祭田産物及振舞式</p> <p>祭田行幸</p> <p>即位礼</p> <p>大嘗祭</p> <p>大嘗</p> <p>親詣</p> <p>山陵親詣</p> <p>東京遠征</p> <p>御大禮御調度の一端</p> <p>御大禮武場調度</p> <p>神式式</p> <p>詔書</p> <p>勅語</p> <p>詔書</p> <p>御大禮準備</p> <p>大嘗祭</p> <p>大正三年四月十七日</p> <p>大正四年四月二十二日</p> <p>齋田々補歌</p> <p>五月二日</p> <p>五月廿五日</p> <p>明治四年</p> <p>依紀宮田々補式</p> <p>六月二十日</p> <p>五月三十一日</p>				

		七月二十一日			
		六月廿六日			
		大嘗祭並に大嘗宴に於て奏せらるる松紀主基兩地方風俗歌			
		五節舞臺として京都在住公卿の令嬢より左の踊り履定せられたり			
		八月八日			
		御神域の店寮			
		御立殿			
		八月十一日			
		八月十三日			
		八月十五日			
		同日			
		八月十三日勅令第五百五十四号を以て大礼記念章制定發表せられたり			
		大嘗宮に龍上の旗			
		御石帯の曳き			
		御料の御物			
		万葉集は前えんばかりの赤地に雲形を繪出せる録			
		上基嘉田抜種式			
		松紀嘉田抜種式			
		御音書			
		遠酒殿			
		春舞殿			
		御奉所			
		大嘗宮上機式			
		御掛花			
		松紀嘉田地			
		御大礼御日取左の如く御治定あらせらる			
		名古屋駅同館宮間の通運延長は五町九間			
		地方警備の次第			
		御大礼に付き天蓋を賜るべき全国高齢者			
		大礼使にては仏教各宗派総代にあらずして大礼の各儀に召されたものは僧籍に著し兼も僧服を着用することを得ずと發表せられたり			
		賢所奉舞與丁は八瀬村より入選せる八瀬童子百二十六名は何れも大礼使雑使として去々任命せられたり			
		松紀主基兩殿に安かるべき繪服は松井愛知事附添十月十二日京都大礼使庁に納入ありたり			
		敬礼喇叭は総て『君が代』を吹奏し離宮賢所は『国の鏡』の曲を吹奏するに決定せり			
		京城御發遣			
		名古屋舞臺			
		七日 午前八時五十分名古屋宮表御門御出門前日御同様の御順序にて齒簾盡々停車場御着御			
		七日 午後一時五十分七條停車場御着御			
		御即位れ當日賢所大前の儀			
		紫宸殿の御儀			
		御即位禮後一日賢所御神楽の儀			
		十二日 午後二時京都皇宮内清涼殿に於て神宮皇靈並に各官國幣社へ奉幣勅使發遣の儀			
		十三日 午後四時鎮魂の御儀を行はせ給ふ			
		十四日 賢所大供饗の儀に於ける西陛下御代拜			
		十四日 大嘗宮鎮宮へ降御の節供奉			
		森殿無上の大嘗祭			
		玉基殿御祭儀			
		單臺殿神樂奉幣			
		十四日皇后陛下には五衣に御綵袴御唐衣御裳を召させられ極彩色御袴扇を把らせ給ひて徳川皇后宮大夫御所三位鳥型に女官を従へさせられ午後八時表御座所に御出立し御還御後御座所あらせ給へり			
		賢所大御饗進			
		十四日午前四時外宮大御饗進勅使奉典久我通保男黒袍にて警部四騎に前後を警衛せしめ外宮齋館に参向し定刻 陛下より御供進の御幣物を納めたる御唐櫃を擡り参進御手水修成の事あり			
		十四日午前八時湯地内務部長勅使として熱田神宮へ参向			
		皇太子殿下には十四日高輪東宮御所表御殿に於て大嘗祭御還拜式を行はせられ			
		風俗舞歌			
		大嘗祭庭機代物	松紀殿用		
		稲舂歌と風俗歌	玉基殿用		
		大嘗第一日			
		大嘗獻立			
		屏風御歌			
		大嘗第一日に於て願はりたる勅語			
		同上に於て首相發案文			
		同上に於て外臣の奉答文			
		全国高齢者へ養老の義に就き御下賜あらせられたる木杯並に酒肴配賜は左の如し			
		大嘗第一日			
		各学校に於ける大礼奉祝奉式次第第八左の如く定められたり			
		御即位禮當日官報号外を以て祝賀の詔書公布せられたり			
		十日官報号外を以て勅令第二百五五号憲則に關する件を公布せられたり			
		十日内務省告示を以て官國幣社昇格發表せられたり昇格の神社左の如し			
		養老及贈恤御沙汰			
		贈恤金頒賜			
		贈恤と訓令			
		褒賜免除軍令			
		十一月八日一木内務大臣は内務省訓令第十二号を以て神宮神職に左の通り訓令せり			
		御大典記念郵便切手			
		御即位の勅語大礼をことほきまつりて			
		大嘗祭			
		養成年生徒御大典奉祝歌			
		御大典古今ノ變遷			岡部譲
		御大典講話報告			岡部譲
		御大典記念事業	福豆郡 海部郡 丹羽郡 津美郡 西加茂郡 豊橋市 南設楽郡 北設楽郡 額田郡 八名郡		
		大典奉祝の記念事業			
		御大典當日祝賀次第			
		愛知県神廟にて大正四年に寄り勤続二十ヶ年に相成候方は至急都市神職会經由本会へ届出相成度此段謹告候也			神職養成部
269	大正4年12月25日	明治天皇敬神の御製			
		歳晚の聲			
		御大禮に就て國民の覚悟			牛塚虎太郎
		神道之精神と題し神道青年会に於て井上博士(哲次郎)の講演せられし筆記の一部			
		神ノ名義等二就キ			西春 松下多計夫車
		万葉集は斯く御記せられたり			大太皇城
		神社修造の勅命			池野長介
		神のめぐみ			池野長介
		天皇陛下に御誓を旨とし給ふ御唐衣により豊家殿の御造當を許し給はず			
		大嘗第二日			
		十一月十九日午前八時三十分天皇陛下には京都皇宮御出門			
		十一月二十日午前九時行在所御出門儀裝の御馬車			
		二十一日午前十時行在所御出門神苑内の御宮			
		二十四日午前八時三十分京都御所御出門齒簾			
		二十五日午前八時三十分御出門			
		二十六日午前九時三十分京都皇宮御出門			
		二十七日午前五時岩倉奉典以下奉輿殿に出仕賢所移御の御祭儀を行はせ玉ふ			
		二十七日午後二時四十分名古屋御着筆			
		二十八日午前六時三十分名古屋離宮御出門			
		廿九日午後四時より深齋せる宮地奉典以下の奉典出仕賢所奉安温明殿の裝飾を奉仕			
		十日御即位に際し華族政治家教育家新聞社長実業家女流教育家に対し夫々勅諭の御沙汰あり			
		同日聖恩給書に及び贈位の御沙汰あり			
		同日叙位の御沙汰あり			
		二日午前八時三十分御出門			
		四日午前八時東京特別列車にて旧糧派輿へ進ませ玉ひ			
		御映の御儀は登極令になきも聖上陛下には古儀に則る候或は河原大藏に倣はせられて大嘗祭行はせ給ふ			

御大典報

御大典報拾遺

		<p>全国神職会に於ては府県社以下神社神職にも關聯の恩典ありき旨十一月四日陳情書を其節に致したり其全文左の如し</p> <p>御大札に付皇典講究所國學院大學長より奉られたる書翰は左の如しと云ふ</p> <p>祭記令其他神職に關する件申すの如く改正せらる</p> <p>勅令第一九七号 勅令第二〇〇号 勅令第一号 告示第三五七号 告示第三五一号 告示第三五八号</p> <p>内務省訓令第一二二号</p> <p>宮内省告示第二七号</p>	<p>帝國幣社以下神社發給令申す通り改正す</p> <p>明治二十七年勅令第二十二号申す通り改正す</p> <p>拝觀者心構</p> <p>御即位礼行セラルヘニ付賀表奉呈ニ關シ其節左ノ通知アリタリ</p> <p>即位礼大嘗祭後大嘗祭第一日ノ儀ノ當日(十一月十六日)地方ニ於テ賀儀場ノ位置及時刻左ノ通定ム</p> <p>明治三十九年四月勅令第九十六号第一案第二項ニ依リ神額幣帛料ヲ供進シ得ヘキ神社左ノ如シ</p> <p>近ク行ハセラルベキ即位礼並ニ大嘗祭ノ當日神宮並官園以下神社ニ於テ行フヘキ祭儀ハ單ニ勅令ヲ以テ定メラシク又省令ヲ以テ定メラシク又省令ヲ以テ其祭式ヲ規定セリ</p> <p>夫ル十日即位礼行ハセラルヘニ付高等官同待遇有爵者有勲者神祇各宗派管長友門跡寺院ノ仕職ニシテ其ノ儀ニ參列セザル物ハ參賀スヘシ</p>		
		<p>御即位記念木植樹登壇祝詞 祭指先書詞 十一月兼願「茶庭菊」 御遷幸の日(遊詣歌) 十一月兼願「社紅葉」 大嘗祭 大嘗祭の依る京都の空を拝みて 御大典記念の植樹 詠草 北条早雲 帝國祝 正殿 十一月兼願 市橋市神職会月次和歌 九月兼願「納涼」 同「当座讀」 大正五年度「兼願」 館の厚集の抜書</p>	<p>本庄大久兼 山本熊太郎</p>		
		<p>主礼階級ニ附テ神職員當局者ニ乞示</p> <p>海部郡通信 西加茂郡通信 東春日井郡通信 内務省神祇局長の要談 新知識内務省局長の要談</p>		池野英介 衣瀧漁人投	
		<p>十月廿七日天皇陛下東京行幸御廟拜觀差許されたる泉郡市神職会代表者一行は泉風引率の下に指定の場所に於て拝觀せり同日拜觀の榮を得たる代表氏名左の如し</p> <p>十二月廿七日廿八日天皇陛下東京へ御遷幸御廟拜觀差許され泉郡市神職会代表者一同拜觀の榮を得たり</p> <p>十二月五日京都に於て開かれたる臨時全國神職会へ本県より二十余名出席せられたり</p> <p>十一月十一日付認可會報發行人変更せり</p> <p>今日印刷人変更届出たり</p> <p>本会來年度通常協議員會は遠からず開會せらるゝと云ふ</p> <p>十月十六日午後祝詞檢定試験を施行し左の七名に合格証書を授けり</p> <p>十一月廿七日廿八日本養成部一同御廟拜觀を差許され講師に奉られ拜觀の榮を得たり</p>			
		<p>明治天皇御製 昭建皇后御歌 古事記 新年の祥 御大典參列所管 宗教家の為めに備む 御大札後新年の所管 神道の内容 儒教考及其影響 本朝月命に五節ノ韻の始メを云る説 古事記講義 百人一首略解(つゞき) 古妻拾遺(つゞき) 宮中歌御会始め もしあまりの句 戰場の追憶(一節摘載) 皇典講究所第二種字階級試験問題 帝國祝歌 國祝 帝國國祝 大嘗祭祝詞 二月兼願「社頭新年」 二月兼願「朝書」</p>		芳賀矢一 八代六郎 千家尊福 河野省三 高山殿島神社宮司講談 池野英介	
		<p>神道振興論</p>		衣瀧漁人投	
		<p>客歲十二月二日午後七時三十五分芽出度御誕生在られたる第四皇子殿下には十二月八日御名を崇仁と命せられ澄宮と稱せらるゝ建宮内省告示第三十一号を以て公布せられ直に御名を皇統譜に登録相成たりと</p> <p>同日宮中三殿御慶節の上御命名奉告祭を行はせられ奏楽中に神額を供し岩倉宗典長祝詞を奏し、應隆下御代社ありて御祭儀を終わらせられたりと</p> <p>御名の御由緒(國府津内閣御用係謹誌)</p> <p>宮中新年式 政始式四日午前十時宮中西一の間に於て新年政始式を行はせられたり</p> <p>大嘗祭紀原田所有者早川定之助氏に對し特別の御恩召を以て御紋章付銀盃一組並に金一円御下賜の御沙汰あり</p> <p>客年十二月五日京都府立第一高等女學校講堂に於て臨時全國神職大會を開かれ來會者九百余名に達し塚本神社局長萩野文学博士萩野宮地八東の三文学士其他十數名の來賓あり極めて盛會なり</p> <p>十二月十日 高田文部大臣を宮中に召させられ左の御沙汰書を讀ほりたり</p>			付決議案
		<p>十一月二十六日 京都市議事堂に於て全國教育大會開催せられ左の宣言書綱領を附議せりと云ふ</p> <p>十二月十日 京都本願寺に於て全國佛教徒大會を開き左の六項を決議せりと</p>	<p>一、浮華輕薄ナル思想ヲ廢シ大ニ敬神崇祖ノ念ヲ涵養スルコト</p> <p>二、不健全ナル利己主義ヲ退ケ益々良風美俗ノ志操ヲ砥固シテ國體ノ精華ヲ揮スルコト</p> <p>三、責任輕視ノ弊風ヲ破リ大ニ立憲思想ノ發達ヲ促シ維新ノ皇統ヲ實養スルコト</p> <p>四、革舊棄新ノ惡習ヲ除キ盛ニ體力ノ増進ヲ計リ質美強健ノ氣風ヲ養成スルコト</p> <p>五、歐化淺薄ノ知識ヲ離ケ教育ノ効果トシテ一層實際ニ適功ナラシムコト</p> <p>一、佛教各宗派は和協擁護し宗綱の刷新擴張を計り益々教化の本文を盡して聖運を扶翼せんことを期す</p> <p>二、各宗派共通の事件を審議し之を処弁する為めに現在の各宗懇話会々則を改正すること</p> <p>三、佛教各宗派は共同提議し益々補修教育青年団指導感化救済等の事業を擴張し其実績を挙ぐる</p> <p>四、帝國内に宣布する各宗教の教義歴史及情実を調査し宗教に対する方針を確立して宗教法を制定せらるゝことを其節に要請すること</p> <p>五、神職と神道宗教の教師とを判然區別し兼務せしめざることを其節に要請すること</p> <p>参照明治十五年一月二十四日内務省達乙第七号自今神宮八教導職ノ兼稱ヲ廢シ歸權ニ關係セザルモノトス此旨相達候事但府県社以下八当分従前通右実行委員は現在の各宗派委員を悉く充つる事</p> <p>六、最近佛教に關し行政官の取扱上穩當を欠くの嫌ある事項を具申し其処置を政府に要請する事</p> <p>京都府知事不信任の遺議を提出し可決し</p> <p>帝外佛教各宗派僧侶に一般被選權を得ることを要求することを可決す</p>		
		<p>御大札奉祝の誠意を發る佛教徒の不心得事件 熱田神宮踏歌神事 熱田神宮沙射神事 露帝御名代ケクキ一太公殿下十二日午前九時三十五分東京駅着車御入京二付聖上陛下には午前九時御出門陸軍用式御正装にて應召侍從其他を従へさせられ東京駅に行幸御出迎ひ遊はされ又同日午後六時三十分より宮中豐明殿に御招宴を開かせられ左の勅語を賜ひたれば太公殿下より左の御答弁を述べられたり</p> <p>神職養成部長神職会副会長長愛知県理事官澤田竹次郎氏ハ今回岩手県警察部長に榮転せられ本月十八日午前十時三十分古尾駅發赴任の途に上られたり本月八日神職養成部生徒授業始式を全教壇に於て行ふ</p> <p>大正四年九月より今年十二月迄に給金を交付せし主札左の如し</p> <p>十二月二十一日午前十時熱田政所神職養成部講堂ニ於テ臨時祭式檢定ヲ施行ス合格者氏名左記ノ如シ</p>			
		<p>明治天皇御製 昭建皇后御製 木金組贈呈書の機 招魂祭の意を擴張して國民勇武の氣風を養成すべし 隆(ひと)つつの神代の教 古事記講義 百人一首略解(つゞき) 古妻拾遺(前号の稿)</p>		石川源太 池野英介 池野英介	
270	大正5年1月26日				
271	大正5年2月29日				

			<p>祭紀主基 ふみ まとの 御神の念深き乃木将軍 甲凡な歌 御書書翰ノ歌タシカコレナリ 宇斯 琴 額に就て 尾張全国総神社所在地(続) 小松をひきて 松詠 和歌 神道探源論 其参 東海府神職会の徴 神宮皇學館学生生徒募集 龍生酒の宴会式</p>	<p>池野英介 池野英介 池野英介 石黒忠直蔵 松岡主人 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		文苑	<p>和歌 神道探源論 其参 東海府神職会の徴 神宮皇學館学生生徒募集 龍生酒の宴会式</p>	<p>松下多計夫 松下多計夫 衣浦漁人投</p>
		寄書	<p>神道探源論 其参 東海府神職会の徴 神宮皇學館学生生徒募集 龍生酒の宴会式</p>	<p>衣浦漁人投</p>
		雑報	<p>神宮皇學館学生生徒募集 龍生酒の宴会式</p>	
		本会録事	<p>本月十二日より十四日まで三日間に亘り大正五年度協議員会を本会事務所に於て開会別項の議案を議せられたり 理事改選 正副委員長 奉成部新学期 大正五年度協議員会決議事項及決議案 愛知県神職会規約 大正五年度経費取支予算書 学際授与者 元神職取締所未支私金仕訳書 愛知県神職会創立準備費 委員会議議書</p>	
		任免辞令 広告	<p>生徒募集</p>	
272	大正5年3月29日	会説	<p>令旨 明治神宮奉建 神社に関する注意(地方改良講習会講演摘載) 天照大神を理想化せよ(摘載) 神社崇敬の意義(摘載) 魂神思想と靈魂不滅の信念(摘載) 為有翁歐洲戦争論の一部 氏念寺 一月二十八日貴族院に於て高木兼寛男と塚本神社局長との間に行はれたる質問応答の如くなりしと 讀のはなし 火と火、木と木 七夕 菊 尾張全国総神社所在地(続) 古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回)</p>	<p>明治神宮奉賛会総裁大勲位功二級 貞愛親王 塚本清治 井上哲次郎 山田新一郎 前田感雲 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		論説	<p>神社に関する注意(地方改良講習会講演摘載) 天照大神を理想化せよ(摘載) 神社崇敬の意義(摘載) 魂神思想と靈魂不滅の信念(摘載) 為有翁歐洲戦争論の一部 氏念寺 一月二十八日貴族院に於て高木兼寛男と塚本神社局長との間に行はれたる質問応答の如くなりしと 讀のはなし 火と火、木と木 七夕 菊 尾張全国総神社所在地(続) 古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回)</p>	<p>塚本清治 井上哲次郎 山田新一郎 前田感雲 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		雑録	<p>氏念寺 一月二十八日貴族院に於て高木兼寛男と塚本神社局長との間に行はれたる質問応答の如くなりしと 讀のはなし 火と火、木と木 七夕 菊 尾張全国総神社所在地(続) 古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回)</p>	<p>池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介 池野英介</p>
		解釈	<p>古史拾遺(前身ノ録) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 初等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 高等科卒業試験問題 愛知県神職養成部卒業生名(高等科第一回、初等科第五回)</p>	
		文苑	<p>龍生酒開筵式祝詞 三月分奉還 神道探源論 其参</p>	
		寄書	<p>神道探源論 其参</p>	<p>衣浦漁人投</p>
		雑報	<p>四月より発行せらるゝと云ふ五錢一錢五厘の新貨幣中五錢白銅貨は表面の中央に八咫鏡を額し其れに円い孔を穿ち模様は非常に優美なり又一錢銅貨は現在の五厘銅貨位五厘は又其半分の大きさなりと云ふ 明治神宮奉賛会愛知支部は倉三十三万円の寄附募集をなす 高松優渾の御恩召を以て一月三十一日迄の如く御下賜の御沙汰ありたり 神仏問答(大阪朝日新聞) 熱田神宮にては建物保存費より経費を支出し二月一日より神宮警備を為す事となり 尾張神道西郡須野村なる故乃木将軍別荘の一部雑木林中に遠宮中なりし本年度産能決定の常備軍艦は左の如しなりと 樹木県内務部長の名にて各都市長へ左の通牒を為せりと 立太子御式は十月三十一日の天長節祝日を以て御奉行相成事に御内定のよし 愛知県山林会は御大札記念事業として県下の町村以上の神社並に由緒ある寺院境内へ樹苗二三種ノ、記念植栽をなすに決し小学校児童の手にて植ゑしむると云ふ 海部郡津島神社大正五年度歳入出予算総額は金壹万貳千參百六拾七圓七拾八錢六厘なりと云ふ 精進郡神職会大正五年度歳入歳出は左の如しと 両陛下行幸啓</p>	
		本会録事	<p>三月四日午前十時祇園神社宮司菊池文武氏養成部へ来られ生徒に対し約一時間に亘り有益なる訓話をせられたり 三月七日付を以て皇典講究所長より愛知県皇典講究所試験委員を左の三氏に嘱託せられたり 三月一日付愛知県指令社第四六三号を以て愛知県神職会規約改正の件認可相成たり 三月二十五日本養成部卒業証書授与式挙行 三月二十七日学際試験旅行三月五日より三日間同部会長殿八名都へ出張 編纂暴騰の結果雑誌費増加を要するも予算に余融無之に止し得ず一時頁数を減少するの外致方なき次第に之有之候間不審御察察相成度様 神職養成部生徒入学願書受付ハ三十一日限二候へ共二二日後ルハモ受取可致候 神職事務所ハ四月一日ヨリ愛知県庁内二移転スルコト相成タリテメ広告ス 寄附金自捐金未納ノ郡市神職会ハ至急完納相成候様致度</p>	<p>従来学校所在地ノ氏神社ニ対シテハ其例祭日ニ限り生徒ノ制式参拝ヲ為スノ例ニ有之候如果社以下神社ノ折年祭新嘗祭ヲ新二大祭ト定メラレ候ニ付テハ該二大祭ニテモ例祭日同様参拝セメ以テ倍々敬神ノ念ヲ敬吹セシムル様致度依命此段及通牒候也 愛知県理事官 守屋榮夫 熱田神宮権司 鈴木松太郎 神職養成部講師 木本清人</p>
		通告	<p>編纂暴騰の結果雑誌費増加を要するも予算に余融無之に止し得ず一時頁数を減少するの外致方なき次第に之有之候間不審御察察相成度様 神職養成部生徒入学願書受付ハ三十一日限二候へ共二二日後ルハモ受取可致候 神職事務所ハ四月一日ヨリ愛知県庁内二移転スルコト相成タリテメ広告ス 寄附金自捐金未納ノ郡市神職会ハ至急完納相成候様致度</p>	
		廣告	<p>神職養成部生徒入学願書受付ハ三十一日限二候へ共二二日後ルハモ受取可致候 神職事務所ハ四月一日ヨリ愛知県庁内二移転スルコト相成タリテメ広告ス 寄附金自捐金未納ノ郡市神職会ハ至急完納相成候様致度</p>	
		叙任及辞令	<p>叙任及辞令</p>	
273	大正5年4月29日	会説	<p>御製・御歌 神職会組織改善問題の解決 御大札と仏教徒(摘載) 神社に関する注意(摘載)(つゞき) あかひきのいと 最尊教ハ皇系宗教(雅密カイゼル著)ノ疑ガ作贋ノリ疑革 金原明彦翁経神養訓の一部 府県郷村社の社司及村社無格社の社掌は神社を代表し神社を管理するもの即執行機関氏子総代及崇敬者総代は神社の維持経営其他の事項を決議するもの即決議機関なれば各其権限あるは言を待たぬ然るに往々誤解して其権限を相侵害するものあるを見る 文部省宗教局にて目下調査中なる宗教法案の骨子となるべきは左の如しと 明治神宮新始祭式次第左の如くなりしと 神前神社自納及考証 額に就て(拾遺) 古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 皇社赤日子神社昇格奉告祭祝詞</p>	<p>秀賀矢一 塚本清治 池野英介 東春 本倉大倉 三河 久永重武 池野英介</p>
		論説	<p>神職会組織改善問題の解決 御大札と仏教徒(摘載) 神社に関する注意(摘載)(つゞき) あかひきのいと 最尊教ハ皇系宗教(雅密カイゼル著)ノ疑ガ作贋ノリ疑革 金原明彦翁経神養訓の一部 府県郷村社の社司及村社無格社の社掌は神社を代表し神社を管理するもの即執行機関氏子総代及崇敬者総代は神社の維持経営其他の事項を決議するもの即決議機関なれば各其権限あるは言を待たぬ然るに往々誤解して其権限を相侵害するものあるを見る 文部省宗教局にて目下調査中なる宗教法案の骨子となるべきは左の如しと 明治神宮新始祭式次第左の如くなりしと 神前神社自納及考証 額に就て(拾遺) 古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 皇社赤日子神社昇格奉告祭祝詞</p>	<p>秀賀矢一 塚本清治 池野英介 東春 本倉大倉 三河 久永重武 池野英介</p>
		雑録	<p>あかひきのいと 最尊教ハ皇系宗教(雅密カイゼル著)ノ疑ガ作贋ノリ疑革 金原明彦翁経神養訓の一部 府県郷村社の社司及村社無格社の社掌は神社を代表し神社を管理するもの即執行機関氏子総代及崇敬者総代は神社の維持経営其他の事項を決議するもの即決議機関なれば各其権限あるは言を待たぬ然るに往々誤解して其権限を相侵害するものあるを見る 文部省宗教局にて目下調査中なる宗教法案の骨子となるべきは左の如しと 明治神宮新始祭式次第左の如くなりしと 神前神社自納及考証 額に就て(拾遺) 古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 皇社赤日子神社昇格奉告祭祝詞</p>	
		解釈	<p>古史拾遺(続) 百人一首路解(つゞき) 古事記語釈(つゞき) 皇社赤日子神社昇格奉告祭祝詞</p>	
		文苑	<p>皇社赤日子神社昇格奉告祭祝詞</p>	
		告示	<p>愛知県告示第百十一号 告示第百十二号 告示第百十三号 告示第百十四号 内務省告示第十号</p>	<p>郷社 赤日子神社 宝飯郡蒲郡町鎮座 右皇社二列セラル 村社 八幡宮 額田郡福岡町鎮座 右郷社二列セラル 石山神社 宝飯郡蒲郡町鎮座 右皇社二列セラル 明治四十年許告示第百三十六十五号神職常帛料ヲ供進スルコトヲ得ル指定神社中左ノ項ヲ改正ス 一 国幣神社熊野神社 島根県出雲国八束郡野村鎮座 右国幣太社二列セラルハ旨被仰出</p>
		雑報	<p>四月三日神武天皇二千五百年式年祭に当りたれば 天皇皇后両陛下は各皇族殿下を始め文部大臣を随へさせられ大和歌傍の御帳に御親祭あらせ給へり 今 天皇陛下熱田神宮御参拝あせられたる御模様 今 皇后陛下熱田神宮御参拝あせられたる御模様 四月七日松井知事代理守屋理事官は今回昇格になりたる宝飯郡蒲郡町皇社赤日子神社へ参向奉告祭を行はれたり</p>	

		<p>本会録事</p> <p>今回名古屋に於て静岡長野岐阜三重愛知五県連合神職会に愛知県神職会総会を開催せらるるにつき愛知県神職会会長は臨時協議員会を召集し本月四日午前十時三十分より愛知県農会館樓上に於て会議を開き別項の件を協議決定せられたり</p>	<p>決議事項</p> <p>一、愛知県神職会連合神職会へ加入する事</p> <p>一、愛知県神職会総会を名古屋に開く事</p> <p>一、七月二十六日午前十時愛知県神職会総会を県立第一高等女学校講堂に於て開会すること</p> <p>一、同日午後一時三十分五県連合神職会協議会を同講堂に於て開会すること</p> <p>一、同日午後六時南陽館に於て有志懇親会を催す事</p> <p>一、二十七日午前八時より県立第一高等女学校講堂に於て神社に関する講演会を開催すること</p> <p>一、同日午後随時拝観を差許され度請願する事</p> <p>一、連合県内に在る神部著の職員をも会員として出席を促す事</p> <p>一、各都市神職会より五県連合神職会及愛知県神職会総会へ提出する議題は七月十五日迄に提出する事</p> <p>但し取捨は理事に一任する事</p> <p>一、各都市神職会より出席者氏名を七月十五日迄に報告する事</p> <p>一、五県連合神職会協議会に於て可否の數に加はる委員三名撰定せる事</p> <p>一、出席者は会費金壹円当日持参する事</p> <p>一、愛知県神職会より本年度予算講演費の内を以て金五拾円補助し若し不足を生じた時は尚五拾円迄追加補助する事</p> <p>一、熱田神宮拾五円津島神社拾五円清田神社八円砥鹿神社五円泉社一社に付式門つきの寄附を各神社に乞ふ事</p> <p>一、事務分担員は予め定められたる通の事</p>		
		<p>叙任及辞令 廣告</p>	<p>叙任及辞令 廣告等</p>		
277	大正5年9月27日	<p>祝辞</p> <p>大会の効果</p> <p>国民性の発揚に就て</p> <p>神職会に望む 国民性と神社</p> <p>七月廿六日、廿七日両日に亘りて愛知県神職会総会に中央五県連合神職会協議会の名古屋に於て開かれたる事は前号に報道せし所なるが今其の盛況のあらましを記して一覽に供す</p> <p>来会者に渡されたる記念品寄贈品 会場其他の簡付概要 総会及協議会の模様 愛知県神職会総会並二三重、岐阜、静岡、長野、愛知五県神職協議会日程</p> <p>神社二開スル講演会(県立第一高等女学校)</p> <p>協議案第一号(提出者知多郡愛知郡神職会)</p> <p>協議案第二号(提出者知多郡碧海郡神職会)</p> <p>協議案第三号(提出者協議員会)</p> <p>協議案第四号(提出者協議員会)</p> <p>七月廿七日神社に関する講演会其他の模様 重なる来賓 本会を協賛し左の通り有志寄贈ありたり録して厚意を謝す 五県連合神職大会に觀覧会出席者員數表</p> <p>廣告</p>	<p>皇典講究所長祝辞 西村総裁訓示 松井愛知県知事講演</p> <p>塚本神社局長訓示 演題及講師 国民性/発揚ニ就テ 松井茂 国民性ト神社 三浦通行 府県以下神社へ金品を寄附せし者に対し相当表彰方県庁に建議の件 神職会の事業として毎年神職に長期講習会を開催するの件并に之に対する県費補助増額申請の件 神職の補職に際しては予め其の人物の適否を当該都市神職会に諮問せられたる旨県庁に建議の件 神職の補職に際しては二都市以上に譲り業務せしめざる様取計はれたる旨希望を県庁に具申するの件</p>	<p>田澤義輔 三浦通行</p>	
278	大正5年10月29日	<p>明治天皇御歿・昭憲皇太后御歿</p> <p>会説</p> <p>大人物養成は急務也</p> <p>神職及神職会に望む 国民性と神社</p> <p>明治天皇奉饗唱歌</p> <p>文苑</p> <p>悠紀斎田跡碑文 八月分業額 俳句</p> <p>伊勢神宮外宮御修理の爲め一時西方の古殿地に黒木宮殿を造営し仮殿遷御の事あるにつき七月十五日朝及深更を以て黒木宮殿造営の第一次祭なる山口祭及び本宗祭を行はせられたり</p> <p>御進講大嘗宮の御用材は六月十五日より鴨川瀨に於て係員の手にて御焼却揃成り候儀に於ては本宮に埋没せらるる事</p> <p>大嘗宮後鎮祭は七月三日大嘗宮御敷にて神々しく行はせられたり</p> <p>明年度の神社局予算中神社費は拾万円を増加計上すと官幣幣用費は明治二十年年度より三ヶ年間貳拾万円以上には増加すべからずとの制限を加へられしが明年度は制限満期となりたれば貳拾万円にては到底官幣幣用の体面を全うすること能はずとの理由也</p> <p>朝鮮神社造営は本年度より着手し継続事業として朝鮮總督府始政十年迄に竣工を告げたまふ見込ありと</p> <p>朝鮮總督府は府令を以て神社の祭式假例式及斎戒に関する件及神職任用奉務服装等の規則を発布し同告示を以て神社奉仕の行事及作法に関する件を公示せり</p> <p>万朝報記者「孰れが勝つか」と題し仏教連合会は「神社と宗教との混淆原因をなして居る内務省の指示の但書を削り神職と神道教師とを兼ねしめざる様改正して欲しい」との決議を齎して高田文相に迫つた処が政府部内では詳確は必ずしも宗教教師のみが執行するものではない既に國民に自葬をさへ許してある以上神職が葬儀を執行したとて差支ない道理事公然之を許可すべしとの意向らしいといふ</p> <p>仏教徒は勿論神道教師でも機力反逆の聲を高めてゐるやと</p> <p>處置改定せられ八月十五日発表相成たり</p> <p>熱田神宮は宮費増員方を其筋へ申申中なりしが今回愈々左の三名を同神宮々室に任命せられたり</p> <p>御大禮所御建物は過般宮内省より本県へ御下賜に相成既に本県庁内に解体の儘保存せられと申す因に表忠会へ交付し招魂社建設の議あり又載恩会より御下賜と願出ありと何れにしても貴重な御建物の御下賜を得て社殿建設の運びに至らば光榮と云ふべし</p> <p>明治神宮奉賛會々員章程</p> <p>宗教団体より</p> <p>皇室の御財産諸株公債にて凡そ一億八千万円山林三百三十三町歩原野十五万町歩各地の離宮御用邸等の宮殿敷地等を合算すれば実に莫大なるものにて年々役二割位増加すと承る</p> <p>立太子礼は愈々来る十一月三日御挙行の事に御決定</p> <p>立太子礼御奉行あらせらるる時官幣幣用費以下神社に於て中祭式を以て奉告祭執行すべし(内務省神社局より各地方庁へ通達あり)</p> <p>立太子礼当日授服殿御下賜金御贈儀等の取置あらせらるるやに洩れ承る</p> <p>立太子礼奉祝歌詠進一般臣民にも差し許さるゝ事と相成り東宮侍従長兼御歌所長子爵入江守卿は兼題「晴天鶴」を出し歌を取取ね詠進の事に決定せりと</p> <p>御式当日皇太子殿下の御召になる御殿は高田茂氏の調進を命ぜられたり其の御儀様は貴丹色駕籠なりと</p> <p>陸軍歩兵中尉海軍中尉大勲位皇太子裕仁親王殿下には立儲礼前即ち来る三十一日天節祝日を以て陸軍歩兵中尉海軍中尉に御慶進遊ばさるゝ由洩れ承る</p> <p>皇太子殿下には立太子礼御奉行御勢神宮へ御参拜あらせらるゝ御都合なりしも尙も外宮仮殿に遷座あらせらるゝに付今秋は御見合せと相成り明年三月伊勢に行啓神宮御参詣あらせらるべしと申す</p> <p>東宮茂郡神職講習会</p> <p>皇道講話</p> <p>東春日井郡味岡村大字本庄村八所社に於ては九月第一日曜日を以て氏子児童會を開催す此日來集の児童男女八十余名参列者來賓十余名先づ練儀に始まり神職の奉告祭執行各員の玉串奉賛勸語奉誦をなして玉串を奉る作業を教授し次に神職の平易にして有益なる講話あり</p> <p>知多郡神職講習会開催 海部郡神職会総会</p> <p>廣告</p> <p>廣告等</p>	<p>塚本神社局長訓示 演題及講師 国民性/発揚ニ就テ 松井茂 国民性ト神社 三浦通行 府県以下神社へ金品を寄附せし者に対し相当表彰方県庁に建議の件 神職会の事業として毎年神職に長期講習会を開催するの件并に之に対する県費補助増額申請の件 神職の補職に際しては予め其の人物の適否を当該都市神職会に諮問せられたる旨県庁に建議の件 神職の補職に際しては二都市以上に譲り業務せしめざる様取計はれたる旨希望を県庁に具申するの件</p> <p>明治神宮へ獻木せし者の内天理教四百五十本真言宗三百余本を最多とし基督教は一本もなし</p> <p>宮内省告示第十三号 立太子礼諸儀式 立儲令附式</p> <p>八月廿三日より余郡役所にて開会せり</p> <p>八月廿七日東宮茂郡神職会第四部会主催にて全郡下山村大字東大沼小学校に於て神祇に関する講話開催せられたり</p> <p>氏子児童会々則</p>	<p>田澤義輔 三浦文字博士講演</p> <p>吉岡細甫 第茂彦 守殿去 自和和三郎 飯田權隆 塩田武夫 角田忠行 池野英介</p>	
279	大正5年11月26日	<p>明治天皇御歿・昭憲皇太后御歿</p> <p>論説及講演</p> <p>我国家を論じて敢神に及ぶ(掲載)</p> <p>古神道と現行法(掲載)</p> <p>神道の儀禮に就て</p> <p>神職修養論(掲載)</p> <p>武士道論の一節</p> <p>國民の奮起を促す(掲載)</p> <p>トホカミミタメの神話</p> <p>天原廣師神祇考(掲載)</p> <p>廣義を撰す</p> <p>物本清太郎に墳水をすゝぐ事</p> <p>葬儀を事とする事</p> <p>我國言語研究の小史(二)</p> <p>神祇の御事につきて</p> <p>先づ宮内大臣立儲令第二條の御規定に依り八月三十一日附を以て左の通り公布せられたり</p>	<p>皇典講究所長祝辞 西村総裁訓示 松井愛知県知事講演</p> <p>塚本神社局長訓示 演題及講師 国民性/発揚ニ就テ 松井茂 国民性ト神社 三浦通行 府県以下神社へ金品を寄附せし者に対し相当表彰方県庁に建議の件 神職会の事業として毎年神職に長期講習会を開催するの件并に之に対する県費補助増額申請の件 神職の補職に際しては予め其の人物の適否を当該都市神職会に諮問せられたる旨県庁に建議の件 神職の補職に際しては二都市以上に譲り業務せしめざる様取計はれたる旨希望を県庁に具申するの件</p> <p>明治神宮へ獻木せし者の内天理教四百五十本真言宗三百余本を最多とし基督教は一本もなし</p> <p>宮内省告示第十三号</p>	<p>吉岡細甫 第茂彦 守殿去 自和和三郎 飯田權隆 塩田武夫 角田忠行 池野英介</p> <p>雪城子 藤原貞</p>	

		<p>名古屋市役所課長野地氏曰く此頃纏つた本を一冊宛二ヶ月間に読み上げる方針を取つて居る今日の教育は編輯の即ち引き抜き物を讀まんとする傾向がある。何の方面にも一寸は解する事が出来るが纏つた脳が出来ぬから駄目であるともなかり神道研究は格別なり</p> <p>日本権民曰く新刊書物が出るに早退取寄せて居る忙しい忙しいと云ふても買つただけは読んで行けるもの。読んで行けるものでは従つて頭も古くなるから強いて読む様にして居ると後れ纏と云はれて居る神職の良業也</p> <p>名古屋市役所衛生課長曰く忙しくて読書も出来ないが和歌と俳句の書を読んで居る和歌の書は万葉集を参考として居る、お膳所専門の書を読んで居るが今日の様に新刊書が出ては読むに追はれて居る始末だと。氏子教育の責任を有する神職全部が此の心掛ありや</p> <p>他山の石として宗教家の講演筆記一二を摘載し布教師等は我が神道を顧となして國民の思想を釣りにて己の宗教を弘めるには如何に巧妙に附会の説曲解の端を存を以て諷刺を懸するかを見る實とす</p> <p>日本國と宗教(摘載)</p> <p>親愛(摘載)</p> <p>以和為貴(摘載)</p> <p>仏道と人道(摘載)</p> <p>祭祀と神職</p>			
雑誌					
解説		<p>古案拾遺 前号のつゞき</p> <p>衣紋の概要(摘載)つゞき</p> <p>百人一首路解(つゞき)</p> <p>古事記語釈(つゞき)</p>			妙宣寺 市島日事師 豊田政晴師 飯田東隱 猪島法理師 藤原舜 池野英介
立太子礼儀報補遺		<p>朝見式御献立は左の如くなり</p> <p>奉御膳 朝餼御膳</p> <p>十一月三日 兩陛下には立太子礼御祝として三室戸主事を東宮御所に御差遣左の御書を贈らせ給へりと申す</p> <p>東宮殿下には兩陛下に左の御献上遊されたり</p> <p>宮殿下其他より皇太子殿下に左の奉祝献上品あり</p> <p>十一月三日 午後三時兩陛下には千種の間に御列國大公使官一同の賀詞を授け給はせ給</p> <p>皇國大使外交官一同代表して奏上せる祝詞</p> <p>露英仏使皇宮より 皇太子殿下に敷書を御贈進相成りたりと申す</p> <p>東宮殿下には兩陛下に左の御献上遊されたり目出度御儀を終らせられ午後三時十分御機嫌最も麗しく御遊遊ばされ直ちに地方官其の他の拝賀を受けさせられ続いて旧奉仕官宮中席次一階三百余名宮内勅任官東宮職高等官東宮御学問所高等官の奉賀御嘉納進ばされ午後五時半全く終らせられたり</p> <p>遠邊式部省の種話抜粋(軍制編撰の稿)(朝見の御式)</p> <p>立太子礼奉祝の為の吉松中將麾下の第一艦隊は品川灣に回航し一方海軍航空隊には飛行機隊を別にツツイの五台同十台の二機は午前九時二十分より各飛行機隊交る搭乗して奉祝飛行を行ひ殊に宮城及び東宮御所の上空にて編隊表敬飛行</p> <p>全国神職会奉賀賀表并に賀状東京府神職会奉賀賀表</p> <p>榮行く御代一 古神道百首一</p> <p>十一月分要願</p>			
文苑		<p>俳句</p> <p>真宗説教二取締ノ必要ヲ認ム</p> <p>元平康命冠弁字を詠み</p> <p>井上東宮御事講談の一篇</p> <p>熱田神宮境内整理計画概要は左の如く也と聞く</p> <p>今回左の通り神社昇格表相成たり</p> <p>那紫の野に於て行はれたる陸軍特別大演習御統裁遊はされ最終日即ち十一月十四日大元帥陛下には播磨郡大川村郡立農学校左御広場なる講評場に成らせられ午後一時上原參謀總長の御先導にて出御玉座に着御あらせられ大迫南軍司令官并北軍司令官の作戦経過朗読上原參謀總長の両軍の成績非常に良好なりとの講話を賜はしめされ奉記の勅語を賜りたりと申す</p> <p>今回演習地方に於ては勅王念士等に對し左の通り階位の御沙汰ありたり</p> <p>宝飯郡連津金状祝賀</p> <p>蒲郡町忠孝会は今回立儲礼奉祝記念として左の修身十訓を発表し之が実行に努むると云ふ</p> <p>神仏を敬ふべし</p> <p>内務省に於ては新教育を受けたる神職を普及せしむる必要を感じ皇典講究所神職養成部修業者を官國幣社の權宜主典又は府県社以下の神職に任用し國學院大學若しくは神宮皇學館卒業生は官國幣社臣司の幸用して漸次老朽神職を淘汰し神職養成の要を充てんとす</p> <p>立太子式に附随して行はせらるる宮中要人の儀は九州に於て挙行相成たる陸軍特別大演習御統裁あらせらるる為に行幸遊はさるる御都合の付延延期相成居たりを以て十一月二十七日正午在京各皇族方を始め奉り外國大使山縣大山公以下文武百官千余名を宮中聖明殿の御餐に召させ給ひ參列員一同に對し御料理の外記念の御敬章附贈當一個を御下賜相成たり</p> <p>皇太子殿下には立太子式御滞なく終了に付申告の爲め伊勢神宮並に神武天皇御山陵藤山御山陵等に御參拜遊はされたり行啓御日賀は左の如く也</p> <p>丹羽郡神職会は今回副会長以下役員満期に付改選せし左の諸氏當選し將來は熱心なる古稱を皇統御街の下に一層規律を正しく其面目に活動して神社の整備神職の修養等に努むる所あるべしと云ふ</p> <p>今回神職に對し左の通り階位相成ありたり</p> <p>昨秋御大札の際名古屋離宮に御駐泊にせられたる實所御奉安殿にて御使用相成たる白木燈台八脚案立等の御用品を記念の爲め熱田神宮を始め泉社等へ十二月十一日御下附相成夫々受領せり</p> <p>天皇皇后兩陛下には去月二十九日青森県古川木駅附近に於て汽車衝突の際死者を出したる慶明百され御救恤金七百圓御下賜相成たり</p> <p>所加志郡神職会は會長自死せし者の葬儀を行ひたり</p> <p>武人の典範として邦人の敬服せる内大臣元帥陸軍大將正二位大勳位功一級大山公は病氣危篤中なりしが遂に十日午前十一時四十五分を以て薨せられたり</p> <p>博識の聞える丹羽郡扶桑村大字北郡大山町泉社針綱神社々司尾關一學氏は先頃より病氣危篤中なりしも病俄かに重り遂に十二月十日死せられたり</p> <p>豊橋市圖書館に於て十一月十九日午後一時より本会の主催に係る講演会を開き東京より見博士を請し神道の講演を願ひ非常の効果を収めたり其筆記は速記録校正の上本誌に掲載せらるべし</p> <p>大正六年度神職養成補助費は一月中旬に於て開金せらるべしと云ふ</p> <p>大正六年度神職養成補助費五百圓通常泉会に於て可決確定し同年度神職常費費五百拾圓も同様可決確定せり因に久野尊貴氏は神職の改善は一層注意ありたりと当局者に望まれたり</p>			
寄書					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					
寄書					
雑誌					
解説					
文苑					

		<p>名古屋市中区政務等に於て應接切つて一命を賭し幼時放蕩の信長公を謀害せし忠臣平手政公の三百六十四年祭を行ひ小学校生徒を参列せしめ市視学市長等の有益なる講演ありしと</p> <p>山梨県に於て武田信玄の墓を奉祀せんが為め今回武田神社奉建なるものを組織し十二万円余を儲金し西山某郡相川村なる武田城址に創立する計画中なりと</p> <p>新占領地青島に神社創立の計画あり遠山正雄氏其筋の命に依り渡航して社殿其他の設計を了したりと</p> <p>護良親王の御功績を方々に伝へん思召にて藤谷一六氏に命じて碑文を選せしめられし御沙汰止みと相成居りしが今回鎌倉にては該建碑の計画中なりと</p> <p>官幣大社原神宮官幣大社熱田神宮官幣大社出雲大社例祭当日に勅使差遣の儀御治定あらせられしと</p> <p>官幣社経費は従来二十一万円なりしが八万円を増加し三十万円計上して臨時總會に提出せらるるに賛成ありしと云ふ</p> <p>神宮祭主の宮は御手代として神宮に仕奉り玉ふが今回山陽宮藤原王を以て祭主御繼嗣に御内定あらせられ香川事務官等の御輔導にて神宮祭主たるべき特別の御教育を受けさせらるる趣なりと申す</p> <p>丹羽郡西成村宇淺野なる淺野正長政公宅跡建碑除幕式は四月廿五日午前十時地鎮祭を行ひ寄主中野周次郎祭務委員一安藤田嶋出動奉仕</p> <p>静岡に於て五県連合神職会を四月廿八日、廿九日両日に亘り開催せられ本県神職会より守屋副会長を始め代表者有志者五十余名出席せられたり</p> <p>出雲大社総務課長福原君に付堀内内務部長井上市会議員長野田熱田神宮々司鈴木同権等御参列となり廿九日午後五時より愛知県高島郡にて歓迎会を開かれたり因に全日午前十二時より県会議事室に於て同男爵の講演を聞かれたり</p> <p>名古屋市中区西區道会熱田神宮々司を総裁に仰ぎ伊藤治郎左工門 鈴木總兵衛 伊藤由太郎 鈴木松太郎 關戸守彦及泉学務課長市視学等を顧問に仰ぎ正会員年額金一円名誉会員同金二円を會費として釀出し敬神思想の普及を図つとあり</p> <p>今度の衆議院議員選挙には仏教界から多数の候補者が現れた広島県から港口了信金尾枝愛知県から田中善立大阪府から紫安新九郎三重県から小林嘉平治東京市から安藤正純静岡県から田中智学山形市から平澤高岳大分県から光山白川崎島県から金澤厚和歌山県から毛利榮隆富山県から河合次示水戸市から本多文雄氏其他立候補を勧誘されている人が大分あると某新聞に見えたり</p>		
		<p>一、全国神職会ハ各地方神職団体ヲ以テ組織スル事 二、各地方神職団体ハ神宮神官官幣社府県以下神社及神宮神部署神職ヲ以テ組織スル事 三、各地方神職団体ヨリ代議員三名以内ヲ選出スル事 四、予算決算ハ代議員ノ議ニ付スル事 五、議案(予算決算ヲ除ク)ハ総子評議員会ノ議ニ付スル事 六、評議員会ハ代議員及評議員ヲ以テ組織スル事 七、予算決算ノ議定ハ評議員會ニ於テスル事</p>		
		<p>第三師團招魂祭は四月三十日五月一日の両日に亘り北練兵場弁天森に祭場を設け執行せらるる</p> <p>四月廿六日準備委員一同郡古野神社事務所に集合し準備に取掛れり</p> <p>四月廿九日午後一時より尾張各都市より一名宛代表者として出勤せらるる祭官一同祭場にて奉仕を行はし同夜は伏見町三番館に宿せり</p> <p>四月廿九日早朝より準備委員一同祭場に出席し所定祭儀の準備を整へ午後一時より斎主以下祭官一同祭場に参集し所定祭儀をなし終りて旅館伏見町三番へ投宿す</p> <p>四月三十日未明より一同祭場に参集し神饌の調理神殿の装飾等各々手別をなして之を了し時の至を待つ</p> <p>本日の所役</p> <p>本日の所役祝詞</p> <p>大正六年(第三師團)招魂祭祭式</p> <p>守屋副会長の発誓</p> <p>皇太子殿下には御見学の為め奈良皇皇へ行啓あらせらるる</p> <p>式場第三師團北練兵場</p> <p>謹告</p>		
286	大正6年6月10日	<p>御製・御歌</p> <p>歌御会始勅語精選歌集</p> <p>新議員諸君に囑望す</p> <p>神社崇敬は國務事項(摘載)</p> <p>府令の二を以て(一)官報載</p> <p>弊教は連徳の延長也と題したる名古屋新聞の社説を摘載して他山の石となし游民視せられぬ望を促す(記者)</p> <p>独立とは何ぞと題せる修養論の一篇(農工月報摘載)</p>	田中短邦 大口副二	
		<p>官幣大社香椎宮々司福村真里君が祝詞作文法の研究に資する為め草紙鹿宮陰著「祭文例」の字句に於て批評せられたるが神社協会雑誌に掲載せられたれば其の一部分つを転載して初学者の研究資料に供し各々神明に仕へて中取持の本分を全ふする祝詞作文の完全を期せられたる祝詞作文の研究を促す。</p>		藤原登
		<p>私祭</p> <p>祭式作法講習筆記ノ補綴訂正</p> <p>鎌倉宮碑</p> <p>入宮奉告祭祝詞</p> <p>素題</p>		村尾景録
		<p>本県理事官にして本会副会長たりし守屋栄夫氏は内務省監察官兼参事官に榮転せられたるにつき郡芳樹松津森三郎大塚永雄岡本信久竹田武勇土屋員安藤幹金三郎野田菅高野地清学山崎正重三浦渡世平日比野寛の諸氏発起となり去る八日午後五時より名古屋市南區治屋町名古屋銀行集会所に於て送別会を開かれたり</p> <p>新任課長中野邦一氏は十一日午後四時四十分分島駅着にて官民多数の出迎を受け赴せられ県庁より廻される自動車にて一旦千秋樓に投じ午後県庁に出頭して知事内務部長以下に新任の挨拶をされたり</p> <p>前課長守屋栄夫氏は十一日午後七時二十三分分島駅乗車東行列車にて上京赴任せられたり因に在住中本県神社の爲めに尽力せられたるを感謝し愛知県神職会より山崎水鏡一列贈しと云ふ</p> <p>頭國神社祭四月二十一日午前八時警備隊奉養に開扉願八時三十分陸相海軍衛隊隊員に参進賀賀司祝詞を奏す九時勅使鳥丸奉養出で拝殿階下に諸員参迎を受け本殿に進み恭しく祭文を奏し終りて齋館に下向直に宮城に帰還復命せらる皇族方を始め大臣本殿に進み玉串奉養其他の拝礼ありて奉養中に撤饋閉扉当日の祭典を終り</p> <p>五月三日東京日比谷公園に於て日本赤十字社第二十五回通常總會を開かれ皇居陛下の臨御を仰ぎ命令を賜りたりと</p> <p>愛国婦人会第十六回總會は五月四日日比谷公園に於て開かれ総裁関野宮妃短草子殿下御臨臨御臨御を願ひ阿部伯備夫人参列女奉養せられたり</p> <p>御見学の為め奈良へ行啓あらせられたる皇太子殿下には七日午前九時二十五分奈良御参遊道明寺駅御参遊車夫より九時天皇皇皇御参遊御参拝あらせられ御参遊後孝徳推古閣明各天皇御参遊に殿戸皇子墓所等御参遊あらせられ午後四時十分御参遊遊ばされたり</p> <p>天皇皇后高陛下には五月八日午前十時御出門大崎町榎ヶ崎島津忠重公新築邸に行幸啓あらせられ</p> <p>五月二日東京日比谷公園に於て日本赤十字社第二十五回通常總會を開かれ皇居陛下の臨御を仰ぎ命令を賜りたり</p> <p>臨時總會召集報書五月十二日の官報を以て公布せらる</p> <p>神代の昔から龍窟に清く深く五十餘川の水源なる大和紀伊伊勢三國の境にある大台原山は高さ一万尺ある高山にして昔から主があつて大きな蜘蛛が居ると言へて誰も登るものはなかつたが今回津の製紙社が其山の木を買つて伐木に着手したと云ふ此の神聖視されて居つた山嶽に五十餘川の水源を荒とは残念なり</p>		
		<p>神社財産規定中改正</p> <p>五月二十一日例年の通り古渡町山王に於て例祭并に重祭を執行せられ中野理事官始め県庁側からも多数御参拝相成り各都市より代表者出動厳肅に祭典を行はれたり因に遺族の参拝殊に多く何れも懐旧の情に堪へぬ様になりきと</p> <p>六月十一日を以て本年度愛知県神職会總會を名古屋市中に於て開催せらるる事に決定せられ五月十四日県庁内に於て理事会を開き夫々役員を定め準備に取掛り各都市神職会長に宛てて会員出席勧誘方并に六月十二日各都市神職会長及協議員連合会開催に付き出席せられ度旨依頼状を發したり</p> <p>今回皇典講究所講師後六位青戸波江氏今年遠居の事に達せられたるにつき有志の人々発起せり此の方法にて復舊の意を表し老後を慰むるに足る方法を講ずる事とし、講習員其他の賛成を求めらるるに付通知方依頼し來れり</p> <p>今回本県神社寺議にて現行神社法規を調査編纂せられたるを本会に於て発行する事とせり</p> <p>別項の通り六月十一日開催せらるる總會の様態并に講演筆記等多数の記事掲載すべくに付紙数非常に増加する見込なれば本号の紙数を割きて次号に譲ることとせり</p>	五月二十二日県公報にて県令第四十八号を以て明治四十一年九月県令第七十六号神社財産登録及び管理並に會計に関する手続中左の通り改正し発布の日より施行する旨発布せられたり	
287	大正6年7月10日	<p>御製・御歌</p> <p>内務大臣訓示</p> <p>内務部長訓示</p> <p>日本民族興衰の衛生</p> <p>國体の根本義</p> <p>時事有説</p> <p>素題</p> <p>雜句</p>	高木兼膏 野田晋磨 高木兼膏	

		<p>今回御上京の李王殿下には六月十四日午前十時二十分参内鳳凰の間に参進天機を奉迎遊ばされ世子殿下が梨本宮方子女王殿下と御結婚御内勤の御礼並に李王殿下の御伝言を言上遊ばされ次で桐の間に進ませられ皇后陛下に御対面御挨拶あり夫れより實所に参進大前に御拝礼ありて宮城御退出あらせられ更に午後二時三十分高輪東宮御所に成らせられ皇太子殿下に御対面の上御宮へ還御遊ばされたりと申す</p> <p>五月十四日官幣大社出雲大社御祭につき掌典河越子爵勅使を承り参向相成りたりと</p> <p>熱田神宮御田植式は六月十五日午後一時より行はれ西春日井郡東春日井郡愛知郡碧海郡より模範青年二名宛出仕し野田宮司以下各欄宣出動厳かなる祭典を行ひ御田植に玉串を捧げ禰宜神職に田植歌を唄ひ青年神田に田植式を執行し農会長代理原口産業課長各郡長山崎農林学校長等参列せられたり</p> <p>李王世子には六月十日李王殿下御出迎のため御来名遊ばされたるが翌十一日松井知事堀田内務部長寺兵衛課長の御案内にて熱田神宮に参拝せられたり</p> <p>熱田神宮例祭 熱田神宮神輿渡御事 皇太子殿下奈良県下各官幣社御参拝次第 九段靖國神社</p>			
		<p>元神職事務所建物を赤却せし願未井に赤瓦契約書現金及書籍器具の保管等今回改選の結果当選せられたる新議員氏名左の如し</p> <p>大正六年度全国神職会通常会へ参列のため上京を命じたる戸田太郎尾崎古雄両氏より本会長へ復命したる概要</p> <p>兼て計画せられたる愛知県神職会総会は愈六月十一日午前九時より本県会議事堂に於て開催せられる盛會を極めたり</p> <p>愛知県神職会総会日程報告</p>	<p>議事日程 決議せられたる事項 建議案中採択可決セルモノ 内務省諮問事項 談話會議談案 実行委員報告</p>		
		<p>内務省訓令第一号</p> <p>林寺保管林規則改正</p>	<p>一、官吏タル本分ヲ恪守スル事 一、官吏タルノ品位ヲ保ツ事 一、繁雜ヲ省キ簡捷ニ就ク事 一、公私ノ別ヲ明ニスル事 一、秩序ヲ正シシテ言語ヲ慎ミ機密ヲ保ツ事</p> <p>勅令第六十七号</p>		
288	大正6年8月10日	<p>祝歌・御歌 神職の活動 本県知事訓示要領の一節 国民道徳の擡起と敬神思想の擡起 岡田文部大臣訓示中宗教に関する一節 日本民族垂示の衛生(承前) 団体の根本義(承前) 神前結婚式概要 古妻治療 百人一首路帳(つゞき) 八月分業績 俳句 醒めよ神職 私立法令文庫</p>	<p>高木兼費 野田吉廣 池野丞介 蓮城津の一祝人 村木龍次郎</p>		
		<p>八名郡二テハ七月七日郡内神職ヲ郡會議事堂ニ召集シ林郡長ヨリ敬神思想普及ニ關スル訓示アリテ引続キ社務ニ關スル注意事項ヲ示サレ数項ノ諮問案ニ付答申セシメ其他打合事項ノ協議ヲ為シタリ</p> <p>成金の奢侈 成金が濱御海水浴場第一流の旅館へ二階全部を賃中借受けたいと申し込んだ金の有るに於て世人の避暑場を奪ひ去らんとする没人情達の真沢遂に他人迷惑となるを憂むべきなり 成金が御振舞の慶福へ京人形に五円紙幣を腰巻させて引いた如何に失敗極まる所為なるか此の引物を喜んで受けた客も亦無恥の痴漢なりと言はねばならぬ</p> <p>藤岡好古翁の訃</p> <p>七月十八日西加茂郡長は郡内各町村長を都街に召集し町村長會議を開き訓示せられたる事項の中神社神職に関する件左の如くなり</p> <p>七月十九日(旧六月朔日)高藏神社井戸賑祭は非常の賑合にて井戸の二丁程手前から二列になり進んで順次井戸を覗き清水を瓶に買い拝殿の前に至り巫女の鈴を揺き一心に子供の無事を祈るもの未明より夜中迄引切らず押寄せたりと</p> <p>又丹羽郡池野村なる尾張富士浅間神社石上祭も十八日より十九日へ(旧五月晦日六月朔日)に亘りて行はれたるが近年稀なる賑合にて金山篝火と提灯にて飾られ石釣の音頭にて動搖めき参詣人を以て充滿せり因に赤十字社より救護班出張して(夜間に備へられ女名は匿名)引をなし撤収運送せり</p> <p>式部長官丹羽氏共伯祖第一宮公を祀れる岐阜東大塚の常業神社は現今無各社なるを県社に昇格出願進中なりと</p> <p>七月三十日明治天皇五年祭の儀を行はせらるゝに付南陸下御名代左の如く仰付られ山陵御参向相成べしと</p> <p>銃丸が当たつても通らぬ甲冑が米國で発明され米國軍は近く之を採用すると云ふ発明者は米國の眼科耳鼻咽喉科ブリュースター博士なり是はベシレヘム鋼で出来て居ると或る新聞に見ゆ</p> <p>七月二十二日付にて岡崎市大字伊賀鎮座郷社伊賀八幡宮は県社に知多郡成岩町鎮座無格社成岩神社は村社に昇格発表せられたり</p> <p>丹羽郡神職会は八月下旬に於て講師を聘し祝詞及祭式の講習會を開く筈なりと 中島郡神職会並兼東郡神職会七月二十三日ヨリ三日間熱田神宮鈴木權宮司ヲ聘シ連合祭式講習會ヲ一宮町公會堂ニ於テ開催セリ講習員ハ炎暑ヲ冒シテ熱心ニ講師ノ指導ヲ受ケ多大ノ効果ヲ收メタリ</p> <p>七月二十四日二十五日両日間編纂書記岡部頼託尚名出張して便丁を替し本会藏書の大蔵書を熱田神宮境内繪馬堂と西樂所との間にある大楠木の下に延を敷きて二十余冊一箱に括けて行へり</p> <p>江藤大佐葬儀は七月二十五日午後一時半樂地水交社出棺青山斎場に於て執行せられたり</p> <p>権原神宮々々桑原芳樹氏皇典講究所幹事に就任相成たる處七月十三日付を以て皇典講究所より本県分所長へ宛通知ありたりと</p> <p>本年度養成部高等科生徒氏名 同初等科生徒氏名</p>	<p>一神社事務ノ整理ニ關スル件 一神職奉仕数ノ制限ニ關スル件 一神職ノ修養ニ關スル件</p>		
		<p>七月二十七日県公報告示</p>	<p>告示第二百四十四号 告示第二百四十五号 告示第二百四十六号 告示第二百四十七号 告示第二百四十八号</p>		
289	大正6年9月10日	<p>御製・御歌 歌御会始勅願精選歌集 神職の努力 国民精神の指導者たるべき神職諸君の反省を促す まなの魂しるへ 我団体の世界的地位(転載) 奢侈の排斥すべき理由 真実心に信仰の人となり續た詩 大國主義の実現 天和魂の発揮</p>	<p>黒野強良 竹田武男 井上哲次郎 農工月報(摘載) (修養の研究) (法学博士上杉慎吉氏講演筆記摘載) (國民体位摘載)</p>		
		<p>華嚴區宣讀めしの祭文例</p>	<p>祝詞は神社に奉仕して祭典を行ひ神慮を慰奉りて神助を祈る神職が神人相感の氣合を發す機關にして祭典の主眼たるものなれば神職の生命とも云ふべき最も大切な事柄に屬す。然れば主要なる祭典の祝詞は悉く内務省に於て定め奉命を以て之を公布せられたるなり。爰に於て神職は遂に祝詞作文及其研究の必要なきが如く(誤解し祝詞作文の研究を怠るものなきや否や。疑なき能はず果して知斯ものありとすれば誤解も亦甚しと云はざる可からず。自ら祝詞作文をなし能はざるものが如何に他人の作文せる祝詞を如何なく讀み得べき必ず發奮に於て句語に於て作文者の氣に入らぬ處あるを免れざるべし。然り作文者の意を達せざる祝詞奉誦が何として神慮を感動せしめ奉ることを得ん神慮不感の祝詞奉誦は無意義に終らぬのみ故に神職は從來祝詞の研究に多大の精力を傾注したり。吾等現神職も益々精密に研鑽せざるべからずと信じ氏が華嚴區宣讀めしの祭文例に就きて所見を記されたるを採録して参考に供し諸君の研鑽を促す。</p>	<p>稲村真里</p>	
		<p>神社の修造 粟斗の話 我國に於ては古來酒は芽出度ごとに用ひられ祭祀は勿論重要祝宴等酒あらざるはなし。 虎神と岸土神と 近年祭々新嘗祭が地方の神社で行はるゝ 百代鳥居の一柱 小橋公の室内蔵氏(天原屋提燈)に出でたり。 近時物価騰貴の爲生活難を託つ者漸く多くなり随つて是が救済策を研究する人も現れて来た。</p>	<p>藤原眞 石井兼次郎 当山春三 淺井謙一郎氏談摘載 長崎摘載 全上</p>		
		<p>百人一首路帳(つゞき) 古事記語釈(つゞき)</p>			

		文苑	鈴の屋集の抜書			池野英介
		寄書	和歌一首			今泉龜治郎
		雑報	敬神、典儀資料 故乃木将軍学院長たりし時在學生徒の父母身元調をせらしたりに或侯爵は非 常に怒つて身荷も皇皇の藩屏たる者等何で調査の必要がと云へるを聞き 大將亦火の如く知り父の身元調査が何で不都合なかと責ひ返されしに流 石の侯爵も有休に父何妻某と神妙に届け出しと云ふ乃木将軍にして始めて此 の事あり世は滔々として権力に怒るゝ者多し 有馬に御遊中の一 伏見宮博恭王殿下有馬町に御成の朝御奉迎上ぐる町民 等が炎天に脱帽せるを重より御覽あり 東京神職会有志者団は一行十八名伊勢神宮を始め奈良歌傍京都等の各神 社を巡拝して帰京せりと云ふ 大阪神士は歴代帝後巡拝団を組織して一行三十二名嵯峨天皇陵を始め近畿の 御陵を巡拝せりと云ふ 鎌倉の勤王国学者藤正五位種田直助翁の三十年祭 國學院大學第二十五回卒業者中本島人は左の四名なり 全国神職会規約今回左の如く改正公布せられたり 古来日本には靈の神があつて養靈をする者は必ず前に其の神を祭り心身を清浄 にしてそれから着手する風俗があつたのである今日では世の中が忙しなり且つ 一つの迷信だと云ふやうなことからさう云ふことなどは余り行ふ者がなくなつたや うであるが然し其の神を祭ることとは實際其の仕事に當る技術家の精神を清浄神 聖ならしめる上によほど力があるに相違ないから大膽い習慣だと思ふ 室後景房が龍石山神社に於ては毎朝出動の時先づ神前に持し出動簿に捺印 すること従つて飲食物を調理したる時は先づ神前に供し然る後善を取る事に 申合せ村長以下東員一同之を案行しつゝありと云ふ			大森皇后宮太夫謹語摘載
		本会記事	祭式講習会 祝詞祭式検定試験			
		各都市神職会記事	知多郡神職会 北設楽郡神職会 西三十四郡神職会連合講習会 隣豆郡神職会 東三十三郡神職会同会 丹羽郡神職会 西加茂郡神職会 学院受領者 諸告			
290	大正6年10月10日		御製・御歌 歌御会始勸語撰歌集			
		会説	府県社以下神社神職待遇の向上を望む 國民精神の指導者たるべき神職諸君の反省を促す			
		論説及講演	見聞録	新聞雜誌又は書籍文書等閱讀中一寸面白と思ふた事柄や學者先生の講演談 話を聞くうちににははと感じた事等を筆記せる物を抽象的に書いて諸君の消閑材 料となすこととす		黒野須良 記者
		学説	華嚴經實際の祭文(つゞき) 平安朝の和歌並に歌人			福村真里 柴田鎮正 池野英介
		解釈	古葉拾遺(前号ノツヘキ) 百人一首略解(つゞき)			
		文苑	藤岡先斗の御書に申す詞 十月分書讀 太極陰陽 菊花をむひにやるとて			今泉英介 顯正 中野知佳 加藤鏡五郎
		寄書	我國の皇道ハ世界ノ光道ナリ 青島戰利品にして今日本國に下附さるゝと云ふ品種數			
		雑報	同省山崎會計課長は夏休に恩賜の衣冠東帯と御紋章入銀製洋番を郷里へ持 し帰り一村の老人達を招待して恩賜の銀盃で一献つゞきして廻り氣満堂の時を 見計ひ件の衣冠東帯を着用して列座の前へ出て一同に拝見させられたりと云ふ 九月二十三日後關成天皇三百年御式年祭に付京都府紀伊深草村深草北陵 へ勸進皇宮地蔵夫氏奉向相成たりと申す 台湾暴風雨罹災者御救恤として兩陛下より金壹千八百円台湾總督府へ御下賜 ありたりと 郡尚武会より精郷兵に軍服を贈与して優遇せる此軍服なるものは日本魂の光と して軍人の誇とする所なるに毎年執行さるゝ間間点呼に応召する際之を着用せ ず納物の着流にて出頭し執行目に大目玉を頂戴する不真面目なものもあるは軍 人たる精神の腐つた輩なりと説人は憤慨して語れり 大正一二年の野に陸軍大演習祭行の際五位を擧り賜はりし勳王家故水谷 民彦翁の記念除隊式は九月廿二日午前十一時執行され加藤慶次氏の式辭に 始まり神職祭典を行ひ知事以下順次五車を擧げて式を終れりと 来る十一月十三日より江濃一帯の山野に於て挙行せらるゝ大演習御統儀の爲め 十一月十一日東京御遊覽行幸あらせられ十七日彦根川瀬間に於て親兵士行は せ給ふ御予定なりと申す又皇太子殿下には陸軍大尉の御資格にて大演習地へ 行啓あらせらるゝと申す 来る十月廿三日廿四日執行相成る第十五師團招魂祭々式執行方を県神職会へ 依頼相成たりと 九月三四日に亘り國學院大學今年入学者選抜試験を行ひ其結果入学を許 可したる者大学部三十四名師範部五十五名なりと云ふ 栃木県知事は左記の事由により府県社以下神職に對し休職処分を行ひたりと云 ふ			
		各都市通信	海部郡神職会 東三十三郡連合神職会講習概況 東春日井郡神職会 丹羽郡神職会 額田郡神職会連合神職会は左記の通り祭式作法講習会を開催せり 中島郡農業郡連合神職会 額田郡神職会議			
		本会記事	九月六日七日の両日同名古屋古渡町山王講堂に於て県下各都市典礼若くは其 候補者並に有志者出席講師鈴木権宮司指導の下に祭式作業の研究をせられたり 七日午後三時より講師製券の爲め全所に於て講習会を開催せり 本年八月進行相成たる祝詞祭式有様試験に合格せしは左の十一名なり 本会専らして本報社専任職員主席風法学士竹田武男氏は今回東京府農業内 務省地方局に榮転せられたり 本会協議員中左記二名改選の通知ありたり 諸告			
291	大正6年11月10日		御製・御歌 歌御会始勸語撰歌集			
		会説	神社拝礼の意義を明確にすべし 神道祭に其人無きや一節摘載			櫻井東花
		論説及講演	山式市莊を論じて神道界の反省を促す(概要摘載)神の道 祭典の精神(國民的精神論)			某博士 宮地殿去 柴田鎮正 藤原登
		学説	平安朝の和歌並に歌人(其二) 朝賀沿革 見聞録			
		解釈	百人一首略解(つゞき) 氏子入道者奉告祝詞 十一月書讀			宮永安美
		文苑	祭式講習会中の雑感 検定試験後合否を待つ間の所感 敬神典儀資料(一)私立法令文庫 地名類聚抄屋張三河ノ郡村名			村上義彦 木村龍次郎 池野英介
		雑録	神前結婚式次第 國民一般に今日の如く(教育の普及せざりし幕府時代には禰宜和尚医者を物議と 擧て何事でも此の人等に関れば了解として知れぬ事は禰宜殿に聞けと言ふ謬 さへありたり) 石原倉敷所長石塚右玄氏簡易療法 薬草及之を用いてきよめる病氣其用法 考古管見 斎戒実行二説イテ	柳原四郎氏著「神前結婚式作法便覧」と云へる裏に名の如く簡便なる一枚綴 のものを寄せられたるを見るに式場座席用具等の図を挿み式次第法等平易に 示したれば一般に配布せば奨励の一助たるを失はざるに式作法の一端を抄 録		今泉龜治郎 羽化仙史
		寄書	斎戒実行二説イテ			
		彙報	京都府紀伊郡伏見町大字丹後同郡深草村大字深草北領内同郡堀の内村大字 堀の内大字明も堀内なる御遺蹟は日御尊を奉り奥地諸君を遊ばせられたる結 果三ヶ所其伏見宮家御先祖の御墓所と判明し九月十一日宮内省告示を以て御 治定の旨左の如く発表相成たり 九月廿七日宮内省告示を以て左の通り御陵墓御治定相成たり 九月二十日付を以て左記の神社は神職常席を供進し得べき神社と指定せられたり 十月八日左の通り暴風雨罹災者へ御下賜の御沙汰ありたりと 文二十日左の如く御下賜の御沙汰ありたりと 以二十日左の如く御下賜の御沙汰ありたりと 神宮神嘗祭勸進使は祭典予節神職公高氏伏見院天皇六百年御式年祭に付 山陵奉向勸進は堂典伯殿島丸光太氏に御も御せられたり 東久運宮御着帯式は九月十七日の吉辰を以て麻布御殿に挙げさせられたる御 模様なりと申す(宮内事務雑誌)左に転載することとせり			

295	大正7年3月	附録	御歴代一覧表補正		
			御製・御歌		
			歌御会始勅願撰歌集	社頭折世(明治二十四年)	
		論説及講演	日本人の道徳と因者の習慣(掲載)		
		学説	神祇に就て(掲載)		遠藤隆吉
		解説	神祇		猪熊逸塵
		文苑	字神祭祝詞		塚田晋彦
			河春月		
		業報	御政事始式に於ける臨時神宮祭主久邇宮多喜王殿下より素上に係る奏上文		
			御講書始に於ける御進講者氏名		
			新年宴會を宮中豊明殿に催せられ賜りたる勅語並内首相奉答符		
			京都洛下下嵯峨御臨川寺東叡裏の元慶寿院旧跡を長慶天皇の御陵墓と推定せられあり		
千家專福男告別式は一月六日青山斎場にて行はれ喪き辺より祭案料として金千両御下賜					
要帳編越智郡に於ては訓令を以て郡内郷社村社大祭に供進使参向の節斎館社間途中行列					
十一月二日熊本市に於て開催せる九州神職連合会にては神祇に関する特別官衛を設けて神社制度の統一を期する問題を決議し実行委員を挙げて着々奔走尽力せしむる事とせり					
全国神職会幹部にては特別官衛設置に関する新運動の方針確立の爲め十一月二十七日皇典講究所内に会合して協議を遂げ翌二十八日更に会合して一通の覚書を作成し具体的案件とし三十日桑原幹事長今泉福本高山立花宮西等相携へて先づ寺内首相水野内務次官等を歴訪して種々意見を開陳する処あり					
全国神職会臨時大会					
本会に於て兼ねて計画中の神職其他篤行者に対する表彰に関し今回規程を設けられ其の該当者は毎年総会の際を以て表彰せらるゝこととなり					
雑録	各都市通信	知多郡神職会通信 海部郡神職会			
296	大正7年4月	御製・御歌			
		歌御会始勅願撰歌集			
		国民性の発揮は敬神に其因す			
		祭祀と神職宗教との區別			
		神社意義の根本的解決如何(掲載)			
		学説	平安朝の和歌並に歌人(つゞき)		有賀長雄
		雑録	放言豪語は禁物		櫻井東花
			余の便方を知らぬ當者		柴田鎮正
		解説	生活の上と下		福島安正
			虎堂訓練の一端(掲載)		新藤元福彦
		文苑	百人一首略解(つゞき)		幸田高徳
			和歌		榎村謙太郎
雑報	所感				
	額田郡神職会月次和歌(一月分)		藤田義祐		
	花下忌憐				
	大正七年度予算に編入せられたる神社に関する費目				
	神宮身振改革に付皇初より左の通り御下願届成たり				
	皇后陛下には常に貧民救恤に大御心を注がせられ今回皇后官職より東京市に對し左の御下賜金の御沙汰ありたりと申す				
	神祇に関する特別官衛の設置を望むの建議案				
	茨城県神職会は客年十二月本会の決議に依り会長の名を以て神祇に関する独立官衛設置の件に付き内閣総理大臣に宛て建議書を提出したりと				
	愛知県自派第二回総会に於て決議せられたる祝儀費の費用を節約すること				
	愛知県知事は動後の美風を尚び質実の良俗を養ひ冗費を節約し貯金をなし他日に備ふることを諭旨第一号を以て善く諭旨せられたり				
雑録	各都市通信	知多郡神職会 西春日井郡神職会 海部郡神職会			
297	大正7年5月	御製・御歌			
		歌御会始勅願撰歌集			
		懇話にて実態を望む			
		皇統万世一系の内容と其新理解			
		神祇に關する特別官衛設置建議案應答書			
		文苑	招魂祭祝詞		西川玉壺
		雑報	和歌		
			官祭招魂社移転及合祀		
			各国の物産		
			愛知県農会は食料独立に関する本県知事の諮問に對し大体左の如く答申せり		
			新編綱新次山は神宮参拜		
			朝鮮南山の頂に遺棄せられたる云ふ朝鮮神社御遺當費		
改葬さるゝ神皇皇廟					
全議案に於て問題となり、神職養成に就て					
大正四年中日本の人口動態統計					
一月十一日伊良湖湖に於て貴衆兩院議員に試射見学せしめられたる今回創造の巨砲					
雑録	各都市通信	東宮茂郡神職会			
298	大正7年6月	御製・御歌			
		歌御会始勅願撰歌集			
		会説	皇統万世一系の内容と其新理解		
		論説及講演	神祇に關する特別官衛設置建議案應答書		
		学説	平安朝の和歌並に歌人(つゞき)		賀茂百樹
		解説	古案拾遺 前号つゞき		宮地殿水
		文苑	百人一首略解(つゞき)		池野丞介
			和歌		
		雑録	和歌		
			和歌		千賀信彦
		雑報	伊勢の神宮文庫案内		東嶋 藝齋
			雑報		
雑報	各都市通信	丹羽郡神職会			
299	大正7年7月	御製・御歌			
		歌御会始勅願撰歌集			
		講演	御大典に就きて(修紀殿供饗の儀)		松井茂謙談
		学説	万世一系天運無窮の神話と其内容		堀田義次郎
		解説	百人一首略解(つゞき)		西川玉壺
		雑報	神伝中臣成講釈(つゞき)		大石正直
			全国神職会に於ける水野内相訓示の一節		
			地方長官會議に於ける内務省諮問事項中神祇に関するもの		
			府県理事官會議に於ける諮問事項及回答事項左の如し		
			宮司談話会に於ける小学教育に対する希望の諮問案に就て大要左の如き答案をなすこととせり		
			立官問題実行委員		
			神社経費補助の途拡張に關し各府県に発せられたる神社局長の通牒		
平田全書完成奉告祭					
宗敎家の組織せる工場布教同登會式					
海部郡新設町大字御廟にては氏神社の基本財産達成の目的にて氏子中出生産、移住者、縁組者家督相続者等は規程の金額を神社へ寄附する規約を設け三十ヶ年間継続義務とせり云ふ					
熱田神宮神祇擴張奉告會組織せられ熱田神宮境内整理の計画案表せらる					
宮城理事官より本県理事官に兼任し中野前理事官の後を襲ふて本会副会長に就職せられたる渡邊豊日子は前任地に於て神社事務をも管掌せられ神社に付きては多大の抱負を有せらるゝといふ					
七月四日午後二時名古屋市外日東郊園に於て香川県警察部長に兼任せられたる元本会副会長堀田義次郎が退任を期して退任式を期す					
内務省神祇義成制度に改正を加へ修業年限を二ヶ年に延長し一学年に於て国史国語漢文等中学科目を修了せしめ二学年に於て神祇史其他神祇必須の専門科を修めしむるに決し取替人員を百名として九月の新学期より実施する事になり					
神祇に関する特別官衛設置建議案の主旨に基き目下内務省神祇局に於て調査中なるが組織は内務大臣の所管を変更せず現在の神祇局を適當の名称に改め神祇調査会も大に拡張する方針にて明年度予算編成迄には成果を得べく調査を取急ぎつゝあり					
文苑	和歌				
奇書	祭記八國家ノ大礼ニシテ大和魂ノ根本ナリ				
雑報	各都市神職会動静	中島郡神職会業報 青年会/美華 出雲団体大社参拜/記(知多郡神職会)			
雑報	愛知県神職会総会記事等				
御製・御歌					
300	大正7年8月				

			歌御会始勸願精選歌集 本会館二百周年発行に当り 神道の意義(掲載) 我園体と近時の思想問題 百の教書 開戦前まで自由貿易商工立国主義を取つて居た英國 腕力即ち競争に依らざる可からざる場合 自己を信ずる信念の強烈なる時 をばり 新古今和歌集略解 明衣 坂口井重任大人を祭る文 茶室和歌 寄書 式式八神職ノ生命ナリ 伊弉神社を中村豊次郎氏私財二千元を投じて江の島に建設せんと内務省へ出願中 内務省は府県以下神職の学識向上 内務省にては七月二日神社調査会を開き委員長塚本神社局長並に田澤書記官三上毅野松本三博士宮西今井閣部宮地の委員出席左記の条件を議す 内務省に於ては官閣階級にて行はるゝ特殊の神事に付き調査を企画 探査補助神球調査の結果 神職原状を保存するに於て調査中なり 北海道開道五十年紀念供進会開催 國學院大學第二十六回卒業式 宇治県にては左の各項に付郡市長の答申を徴し 各都市通信 本会記事 延喜式祝詞研究 祝詞 五穀豐稔國家安泰臨時祈願祭祝詞案 御製・御歌 歌御会始勸願精選歌集 國學院大學生諸子に告ぐ(掲載) 訓示 祝詞 新古今集略解 延喜式祝詞研究 プリントと神職の活動 和歌 各都市通信 本部郡通信 本会録事	今泉定介 建部謙吾	
301	大正7年9月				
		講演	國學院大學生諸子に告ぐ(掲載) 訓示 祝詞	小松原英太郎 松井茂氏講演	
		解説	新古今集略解		
		研究	延喜式祝詞研究 プリントと神職の活動	今泉龜治郎	
		文苑	和歌		
		雑報	各都市通信 本部郡通信		
304	大正8年1月				
			後水尾院天皇五典之御製 上諭 賢所御告文 皇章典増補 大正八生を迎ふ 角田忠行翁の年表を編みて 祭典をこし一部を皇室事務とし一部を皇室事務とする議(掲載) 皮相的時代思潮と神書 秘密的眼光と神書 祝詞 新古今和歌集略解 講詞(掲載) 民間神道の事に就て 奉行の役目(掲載) 祭典の儀式及び心得 水引の結び方 冬日詠贊児之難歌並短歌 十二月過六 額田郡神職会月次和歌		
		論説	天皇陛下には十二月九日午後一時半より宮内省御用掛小牧昌業氏を御前に召させられ講話の御進講 みえない 長慶天皇の御陵墓に既馬原新田下江田村の古墳 宝十世子退下と製本宮方子女王殿下との御婚儀 維新の歴史を記せる神國の志士 首相文相打揃て伊勢西神宮へ 陸軍大演習に際し神位の御沙汰ありたる 十二月十一日の雪は大内山の木々の梢に時ならぬ花を咲かせ 軍典佐伯氏は警衛別命並に警衛別王御墓御決定に付奉告使として参向せられたり 額田郡山元町小学校校長鈴木江氏は十二月五日午前一時頃同校より祭火 元香和興神職取締所長角田忠行翁が在職中に於ける功績は人の能く知る所なるが其の謝せんがため本会より金壹百圓を贈呈したり 國学の泰斗にして斯道の明星たる前熱田神宮々司角田忠行翁は生涯の功業に依り今回四位に昇叙 十二月十五日午後四時前熱田神宮々司從四位勲六等角田忠行翁は数日前より病榻に在り療養中なり 故從四位勲六等角田忠行翁の葬儀は十二月十九日を以て執行せられたり聊か其の遺骸を弔ふ 十二月十八日神職会は臨時協議会を開き角田翁へ玉料奇禮及雑祭式制定に關し追加予算を議決せりと 十二月二十日午前十時神職会本部本会終業式を行へり 十二月二十日神職会本部に於て祝詞料及祭式作業の検定試験を施行せし祝詞料九名祭式作業料二名受験をせり 愛知県神職会は岡部宮司守屋理事官を請し本月九日第五中学校講堂に於て講演会を開催せりと來一月十七日頃大正八年度協議員会を開き大正八年度経常費予算其他の議案を附議する みえない 職員動靜	松井茂 有賀長雄 米達義弘 同人	
		解説	新古今和歌集略解 講詞(掲載) 民間神道の事に就て 奉行の役目(掲載) 祭典の儀式及び心得 水引の結び方 冬日詠贊児之難歌並短歌	藤井行徳 遠山英一 宮地蔵夫	
		文苑	十二月過六 額田郡神職会月次和歌	村田正夫	
		業報	天皇陛下には十二月九日午後一時半より宮内省御用掛小牧昌業氏を御前に召させられ講話の御進講 みえない 長慶天皇の御陵墓に既馬原新田下江田村の古墳 宝十世子退下と製本宮方子女王殿下との御婚儀 維新の歴史を記せる神國の志士 首相文相打揃て伊勢西神宮へ 陸軍大演習に際し神位の御沙汰ありたる 十二月十一日の雪は大内山の木々の梢に時ならぬ花を咲かせ 軍典佐伯氏は警衛別命並に警衛別王御墓御決定に付奉告使として参向せられたり 額田郡山元町小学校校長鈴木江氏は十二月五日午前一時頃同校より祭火 元香和興神職取締所長角田忠行翁が在職中に於ける功績は人の能く知る所なるが其の謝せんがため本会より金壹百圓を贈呈したり 國学の泰斗にして斯道の明星たる前熱田神宮々司角田忠行翁は生涯の功業に依り今回四位に昇叙 十二月十五日午後四時前熱田神宮々司從四位勲六等角田忠行翁は数日前より病榻に在り療養中なり 故從四位勲六等角田忠行翁の葬儀は十二月十九日を以て執行せられたり聊か其の遺骸を弔ふ 十二月十八日神職会は臨時協議会を開き角田翁へ玉料奇禮及雑祭式制定に關し追加予算を議決せりと 十二月二十日午前十時神職会本部本会終業式を行へり 十二月二十日神職会本部に於て祝詞料及祭式作業の検定試験を施行せし祝詞料九名祭式作業料二名受験をせり 愛知県神職会は岡部宮司守屋理事官を請し本月九日第五中学校講堂に於て講演会を開催せりと來一月十七日頃大正八年度協議員会を開き大正八年度経常費予算其他の議案を附議する みえない 職員動靜		
		附録	神代百首序 御誦書 御製・御歌 精選歌 志士奮起の秋 賢妻剛健の氣風 國家的觀念 床次内相の地方長官に対する訓示の一節 園体の精華發揚 正義公道の觀念 祝詞 賀茂真淵翁の学説一斑(記念号抜萃) 左右尊卑説 教育の御勸語 伊勢神宮御衣祭と割田福(掲載) 休戦に対する日本人の態度に對し外國の批評 新古今集略解 和歌 御政治式 神宮歳旦 大正七年中に皇室より民情を哀ませ給ふて御下賜遊ばされたる金額一千三百余万円に上り 天皇皇后高陛下には一月九日午前十時宮中鳳凰の間に御出あらせられ御誦書の御式を行はせ給ふ 一月十八日午前十時宮中鳳凰の間に於て御歌会始を行はせ給ふ 十一月三日午前九時より専修大學講堂に於て開かれたる全國道徳団体大会に於ける久保田橋浜市長提案「武術に對しては全国と統一する武徳なるもの有るが如く國民思想を統一する爲めに明治神宮の神域に崇高なる修養殿を建設して道徳の端一を固めんと云ふ件 予て承諾を得て決定せられ居たる國學院大學長芳賀博士典講所所長小松原前文部大臣の就任式は一月十四日同所講堂に於て挙行せられたり 議和全權委員 伊勢神宮神域を通ずる五十餘川水邊結温せんことを要する歌神家 伊勢神宮を中心として國民思想の統一を図り精神上の諸問題を攻克解決せんとする計あり 一月十一日宮中皇堂前に於て皇太后御御覽を行はせられ 一月十一日午前九時より沼津御用邸に御遊幸中の皇太子殿下には御質問所に於て御始業式 伊勢神宮参詣客は除夜参宮人内宮一万五千六百五十六人外宮二万三千人なり 一月十三日市長會議に於ける知事の訓示の大要に國民の覚悟としては物質界も精神界も共に世界的となるの傾向を呈し殊に人類共済の大精神興勢すべきを以て我が國に於ても今後は一層對外的思想の裏面に努力することを希望 興き切りにては今回典講所國學院大學櫻橋校舎の廳を借りて本月二十二日金十万円を毎年一万圓宛向ふ十ヶ年間に亘り御下賜の御沙汰ありたり 改正中小学令の特色と認むべき点の一として國民精神の教養に一層の力を注ぐ爲めに情操教科の教授時間を増加することとなるは國民思想を善導する上に適切なりと云ふべし 伏見稻荷神社に於ては慰問袋を募集	角田忠行謹誌	
305	大正8年				
		論説	國家的觀念 床次内相の地方長官に対する訓示の一節 園体の精華發揚 正義公道の觀念 祝詞 賀茂真淵翁の学説一斑(記念号抜萃) 左右尊卑説 教育の御勸語 伊勢神宮御衣祭と割田福(掲載) 休戦に対する日本人の態度に對し外國の批評 新古今集略解 和歌 御政治式 神宮歳旦 大正七年中に皇室より民情を哀ませ給ふて御下賜遊ばされたる金額一千三百余万円に上り 天皇皇后高陛下には一月九日午前十時宮中鳳凰の間に御出あらせられ御誦書の御式を行はせ給ふ 一月十八日午前十時宮中鳳凰の間に於て御歌会始を行はせ給ふ 十一月三日午前九時より専修大學講堂に於て開かれたる全國道徳団体大会に於ける久保田橋浜市長提案「武術に對しては全国と統一する武徳なるもの有るが如く國民思想を統一する爲めに明治神宮の神域に崇高なる修養殿を建設して道徳の端一を固めんと云ふ件 予て承諾を得て決定せられ居たる國學院大學長芳賀博士典講所所長小松原前文部大臣の就任式は一月十四日同所講堂に於て挙行せられたり 議和全權委員 伊勢神宮神域を通ずる五十餘川水邊結温せんことを要する歌神家 伊勢神宮を中心として國民思想の統一を図り精神上の諸問題を攻克解決せんとする計あり 一月十一日宮中皇堂前に於て皇太后御御覽を行はせられ 一月十一日午前九時より沼津御用邸に御遊幸中の皇太子殿下には御質問所に於て御始業式 伊勢神宮参詣客は除夜参宮人内宮一万五千六百五十六人外宮二万三千人なり 一月十三日市長會議に於ける知事の訓示の大要に國民の覚悟としては物質界も精神界も共に世界的となるの傾向を呈し殊に人類共済の大精神興勢すべきを以て我が國に於ても今後は一層對外的思想の裏面に努力することを希望 興き切りにては今回典講所國學院大學櫻橋校舎の廳を借りて本月二十二日金十万円を毎年一万圓宛向ふ十ヶ年間に亘り御下賜の御沙汰ありたり 改正中小学令の特色と認むべき点の一として國民精神の教養に一層の力を注ぐ爲めに情操教科の教授時間を増加することとなるは國民思想を善導する上に適切なりと云ふべし 伏見稻荷神社に於ては慰問袋を募集		
		学説	賀茂真淵翁の学説一斑(記念号抜萃) 左右尊卑説 教育の御勸語		
		雑報	伊勢神宮御衣祭と割田福(掲載) 休戦に対する日本人の態度に對し外國の批評		
		附録	新古今集略解 和歌 御政治式 神宮歳旦 大正七年中に皇室より民情を哀ませ給ふて御下賜遊ばされたる金額一千三百余万円に上り 天皇皇后高陛下には一月九日午前十時宮中鳳凰の間に御出あらせられ御誦書の御式を行はせ給ふ 一月十八日午前十時宮中鳳凰の間に於て御歌会始を行はせ給ふ 十一月三日午前九時より専修大學講堂に於て開かれたる全國道徳団体大会に於ける久保田橋浜市長提案「武術に對しては全国と統一する武徳なるもの有るが如く國民思想を統一する爲めに明治神宮の神域に崇高なる修養殿を建設して道徳の端一を固めんと云ふ件 予て承諾を得て決定せられ居たる國學院大學長芳賀博士典講所所長小松原前文部大臣の就任式は一月十四日同所講堂に於て挙行せられたり 議和全權委員 伊勢神宮神域を通ずる五十餘川水邊結温せんことを要する歌神家 伊勢神宮を中心として國民思想の統一を図り精神上の諸問題を攻克解決せんとする計あり 一月十一日宮中皇堂前に於て皇太后御御覽を行はせられ 一月十一日午前九時より沼津御用邸に御遊幸中の皇太子殿下には御質問所に於て御始業式 伊勢神宮参詣客は除夜参宮人内宮一万五千六百五十六人外宮二万三千人なり 一月十三日市長會議に於ける知事の訓示の大要に國民の覚悟としては物質界も精神界も共に世界的となるの傾向を呈し殊に人類共済の大精神興勢すべきを以て我が國に於ても今後は一層對外的思想の裏面に努力することを希望 興き切りにては今回典講所國學院大學櫻橋校舎の廳を借りて本月二十二日金十万円を毎年一万圓宛向ふ十ヶ年間に亘り御下賜の御沙汰ありたり 改正中小学令の特色と認むべき点の一として國民精神の教養に一層の力を注ぐ爲めに情操教科の教授時間を増加することとなるは國民思想を善導する上に適切なりと云ふべし 伏見稻荷神社に於ては慰問袋を募集		
		業報	天皇皇后高陛下には一月九日午前十時宮中鳳凰の間に御出あらせられ御誦書の御式を行はせ給ふ 一月十八日午前十時宮中鳳凰の間に於て御歌会始を行はせ給ふ 十一月三日午前九時より専修大學講堂に於て開かれたる全國道徳団体大会に於ける久保田橋浜市長提案「武術に對しては全国と統一する武徳なるもの有るが如く國民思想を統一する爲めに明治神宮の神域に崇高なる修養殿を建設して道徳の端一を固めんと云ふ件 予て承諾を得て決定せられ居たる國學院大學長芳賀博士典講所所長小松原前文部大臣の就任式は一月十四日同所講堂に於て挙行せられたり 議和全權委員 伊勢神宮神域を通ずる五十餘川水邊結温せんことを要する歌神家 伊勢神宮を中心として國民思想の統一を図り精神上の諸問題を攻克解決せんとする計あり 一月十一日宮中皇堂前に於て皇太后御御覽を行はせられ 一月十一日午前九時より沼津御用邸に御遊幸中の皇太子殿下には御質問所に於て御始業式 伊勢神宮参詣客は除夜参宮人内宮一万五千六百五十六人外宮二万三千人なり 一月十三日市長會議に於ける知事の訓示の大要に國民の覚悟としては物質界も精神界も共に世界的となるの傾向を呈し殊に人類共済の大精神興勢すべきを以て我が國に於ても今後は一層對外的思想の裏面に努力することを希望 興き切りにては今回典講所國學院大學櫻橋校舎の廳を借りて本月二十二日金十万円を毎年一万圓宛向ふ十ヶ年間に亘り御下賜の御沙汰ありたり 改正中小学令の特色と認むべき点の一として國民精神の教養に一層の力を注ぐ爲めに情操教科の教授時間を増加することとなるは國民思想を善導する上に適切なりと云ふべし 伏見稻荷神社に於ては慰問袋を募集		
		雑報	伊勢神宮参詣客は除夜参宮人内宮一万五千六百五十六人外宮二万三千人なり 一月十三日市長會議に於ける知事の訓示の大要に國民の覚悟としては物質界も精神界も共に世界的となるの傾向を呈し殊に人類共済の大精神興勢すべきを以て我が國に於ても今後は一層對外的思想の裏面に努力することを希望 興き切りにては今回典講所國學院大學櫻橋校舎の廳を借りて本月二十二日金十万円を毎年一万圓宛向ふ十ヶ年間に亘り御下賜の御沙汰ありたり 改正中小学令の特色と認むべき点の一として國民精神の教養に一層の力を注ぐ爲めに情操教科の教授時間を増加することとなるは國民思想を善導する上に適切なりと云ふべし 伏見稻荷神社に於ては慰問袋を募集		

		一月十日付を以て園幣中社大泉神社宮司被仰付たる小林本十郎氏は金月二十一日赴任せられたり 大正七年十二月十七日附を以て会長より各都市長へ左の如き依頼状を發せられたりと		
306	大正8年	御製・御歌		
		歌御会始御預選歌集		
		論説	地位と職位の区別を論ず	宮地直一
		講演	國學院大學に國法科を設置するの必要なる理由	清水澄
		字説	内務省諮問事項に就て	野田哲庵
		解説	長慶天皇の御事につきて	藤原貞
		文苑	新古今和歌集略解	
		雑録	原首相神宮参拜の御奉奏祝詞 天皇皇后陛下には一月二十八日午前九時廿五分宮城御出門九時四十分自地方を始め奉り文武百官の齊集山に御機嫌願しく皇宮御参事 今日御書字文學社本社本部は第六回校訂準備委員に任ぜられたり 李太子園葬の件は勅令第九号を以て左の如く公布せられたり 李太子園葬当日畫帳を安置する大儀 明治神宮前に建設する大鳥居の用材 哈爾濱郊外に神社を建て日露戦役当時哈爾濱大鉄橋破壊に赴き露人に発見されて郊外の露と消えし園士横川省三津橋小西氏を記する事なし 今回国学普及の爲め國學院大學拡張の事上聞に達し御内帑金一万円宛十ヶ年御下賜の御恩典を被れるに付き第一期拡張として道義科研究所の設置典義館の調査任教員の増加圖書の蒐集文庫の建設講演開催等を事にし第二期には國法科を設置する事 一月廿八日陸軍省は左の如く引揚部隊公表せり 静岡県駿東郡大岡村宇治道の地 陸軍省にては来朝中の仏國飛行機一行中の軍 李太子園葬に付勅使として日根野侍孫皇后宮御使 一月廿五日衆行内閣知事教育会棟上にて大正七年度協議員を開会し選議員委員とす 本会事業として兼てより計中の雜祭式編纂に付き二月廿日左の四氏に委員を囑託せられたり 本会神職養成部に於ては来る四月入学せしむ可生徒左の通り募集願書受付は三月末日限りとす 本年度神職養成部卒業生は約廿三名の見込みなり 大正八年度收支予算書(可決確定)	(1) 本月下旬より二月下旬に亘り内地に帰還せしむる部隊 (2) 前期部隊に引続き内地に帰還せしむる部隊
		大会録事	大正八年度收支予算(可決確定) 大正六年度收支決算(認定) 鈴木信比古 中野周次郎 神山栄 大木寛治	
		308		
御製・御歌				
歌御会始御預選歌集				
論説	特別會設立問題は今如何になれるか			
講演	歴史より見たる我國民	辻善之助		
説園	講話會議に列席せらるゝ西園寺公 私の考ふる所を以てすれば、道徳を離れて法律なく、又法律を離れて完全なる道徳はないと思ふ 明治十二年の夏、夏米利加の前大統領グラント氏が日本に來られ、園費を以て遇せられ、浜の離宮に於て先帝陛下と園政上に就き御懇談上げられた時、御下問に對してグラント氏嘗 日本を脱しては中野度御管理御終了遊ばされたる 國民忠告書に於て神官神職優待の意見書(以上) 廣り捨御免の日本			
文苑	東京御成年式奉祝唱歌 常清八景			
雑録	皇后陛下には五月十六日午前九時三十分京都御所御出門 皇太子殿下には五月十九日東京御参事 四月三十日、五月一日の両日に亘り春三師團臨時招魂祭は北練兵場官祭招魂社に行われ 五月十七日より開催せらる本年度全国神職會議へ出席の爲め本会代議員榊原四郎、鈴木達彌の二氏上京せり 五月二十一日古渡町山王に於て例年の通り大祭及び嘗事を執行したり 五月二十六日の両日東海五県連合神職會議を長野市公会堂に開催せり 和歌の玉種中まだ掲載し得ざるものあり取察を乞ふ 大正八年四月九日法律第四号を以て史蹟名勝天然記念物保存法を發布せられたり 史蹟名勝天然記念物保存法は大正八年六月一日より之を施行す	勅令第二百五十八号 勅令第二百六十一号		
広告	廣告			
309				
御製・御歌				
歌御会始御預選歌集 新年篇				
論説	神秘的神事の復興を望む 戦後國民の覚悟	床次竹次郎		
説園	中橋文相は言葉則文語にして又口語たるべき新案の創作に廣心し、牧野参事官に欽慕研究を委せしめつつあり の回案に於て着手せざる長力過激に就て 神道家は社会政策としてはなすべからず、政治家を教導して社会政策を実施すべき根本問題を提示する事が出来る、又富業を感化せしめて社会公共の爲めに尽さしむることが出来る、故に神道家は自らハシ問題を解釈することは不可能であるが、間接に之を解釈する道を講ずることは出来る 戦争開始の当初、我が藥木博士は今の戦争の爲め、思想の源泉不幸にして濁濁すべしと悲観した。果然戦争以来、思想の源泉濁濁したものは独日本のみではなく、欧米に於ける思想も亦著しく濁濁しつゝあり着戦時中歐米に於て出版されつゝある書籍は、悉く低級なるアモクラシーを説いたもののみである 思想は歴史的産物である、思想の価値を判断する 國家として最も憂慮に堪へざるは、来る十月米國に於て開かるゝ國際労働會議の結果なり 人道と云ひ、平和主義と云ひ、只濁に之を口にするものはあれども、確たる教義を立てた道徳家なければ、宗教家もない文化の程度高脚きを証するものにあらざる、今や個人の豊饒漸く絶えて國家は蠻態度の中に彷徨す 日本の女子は元來綺麗を飾り、男子に対する肉体的犠牲者になるを以て、高級な婦人と看做し、多く婦人は卑賤なる女の如く屈辱して居る 支那國民は目前の利害に盲動して又前途を顧みず而も何れの方面よりも煽動され易く、又師の前に勢威を誇りて利息を逞し、弱者の前に跳ぎて只其愛情を貪るの國民性を有す 天下の事上に立つ役目の人間が下風に向つてアへのコウだのと干渉がましい差圖をするやうでは、下風に居る者が思ひ切つた活動はされぬ 私達も決して貴族と平民との間に差別を付けるやうな事は好まませぬが、人と人との間に於ける礼讓は社会秩序上絶対的のもので人として礼讓がなければ、禽獸と何等區別がありません 去二十三日眞の官邸に三教七八八派の代表者九十一名を招待し、宗教を通じて思想問題を整理すべく計画し、自己の所見の一端を彼等が平生の説教に反射せんことを希望せり 新古今集略解(つゞき)			
文苑	悠久侯應都翁を誄 兼語和歌	平田盛胤		
議案	五月十七日より一週間東京皇典研究所に於て開催せられたる全国神職會議に於て議決せられたる議案左の如し願して出席者は案に二百二十六名なりしと 地方官會議に於ける神社局長の指示事項は左の如し 静岡県田方郡菟山村は源朝公再興の地として有名なが今回同村有志者等は島津公爵の賛助を得て同地に朝朝神社を建設せんと協議中なりと 鉄道院の旅行案内に種々研究の結果敬神思想普及又は発揚に資すべき記事を掲げたる『神蹟』と云ふ一項を新に加へられたり 阪谷男爵を会長とせる中央乃木会は赤坂区新坂町に乃木神社創設の認可を得たれば府社にすと云ふ説又別格官幣社にすと云ふ議論もありしが明治神宮の増社といた方が意味も深故府議の本意でもあらうと云ふことになりしと云ふ 白旗開戦に當り身代神官に就て御書字御参事御執行あらせられ園文相の御報告あらせられたるが近(平和克復の端には天皇陛下御親しく御報告の御奉奏御執行あらせらるゝと申す申して其の時期は本年秋の頃ならんと申す 東京殿下の御在所たる高輪東宮御所は御成年式も御終了の事なれば今後総ての間に於て御不便を感ぜさせらるゝより東宮御所御改築あらせらるべしと拝察し奉るとの趣なりと申す 我陸軍省にては今回飛行練習教授の爲め来朝の仏國飛行機特一行に記念品として我が武士道の精華たる日本刀一振贈呈する 六月四日午後七時遷去せられたり致遠大寺奉迎の御略歴 岐阜県名高郡神岡村に於て一町村に於て總社を定め諸種の報告祭及び國家の祭祀を此の神社に行ふことを協定し町村費の補助を受けることを町村長に建議せり 小倉郵便物料金左の如く改正四月十五日より実施せられたり 厚張全國高等小学校長會議に於て決議せられたる問題 陛下より故徳大正公に願はれたる諱詞は左の通りなりと申す 内務省官制改正は左の通り六月十一日公表せられたり 安全第一協會の内田嘉吉氏等四百余名の有志が計畫せる安全週間 船田神社神祇擴張工事は敷地買収も一部を除き買収済となりたるを以て當局者は近く工事に着し一部の積聚地土に對しては止せず土地収用法を適用して事業の進捗を為すことなれりと云ふ 海部都督高野大官閣下上野宮祭殿田御田御式 東京殿下には六月十五日午前十一時御出門御茶の水教育博物館に開會中の災害防止展覽會に行啓	議案 一 神社行政に関する件 一 神職養成に関する件 一 神事旧慣の保持に関する件		

		<p>秋田県教育会は精神的に敬神の實を挙げて各種学校教員全部県立高神社(平田、佐藤二人を記す)の崇敬者となり毎年教育会懇会の時に祭典を行ひ教員全部参列する又師範学校卒業式当日卒業生を行ひ教員全部参列する又師範学校卒業式当日卒業生を此の神社に参拝せしめ神前にて学校長が訓戒を與へる例になつて居り又更に神宮奉斎殿へも参拝せしめ皇祖の大前にて皇室國家に参拝すべき事を望むと云ふ何所の教育会の綱領も敬神思想養成の事を第一項に掲げ立派に出来たるも教員自身が神社の前を通過する際階級もせず拝礼もせず敬神の實を行はずして教壇に立つ時のみ敬神兼祖を生徒に教ふるも効の奉らぬは当然なりとす</p> <p>土屋光金中将は九月新学期から帝大法科政治科に入学して三年で卒業出来ずば五年でも七年でも研究すると云つて居られ</p> <p>五月十日丹羽郡長は郡内神職全部を郡衙に召集して左の事項を指示して懇話会訓諭せられたりと</p>		
		<p>八名郡神職会は左の事項を協定し之を実行しつゝありと云ふ</p>	<p>一神職に於ては爾來國民に國家觀念を養成する為め奉仕神社に於て毎月月次会の前後立國の大義並に神徳の講演を為す事</p> <p>教育会、青年会、在郷軍人会其他各種の会合ある場合には出席し講演指導を為すこと</p> <p>一時機を見て小学校と連絡を取り学校又は神社に於て立國の大義を解き國家觀念の啓蒙に努むること</p> <p>郡内各神社を中心として組織する婦人会の日時を定め神職会員出席し婦人に敬神の大義を講演し及祈善心を養成すること</p> <p>神職会員は各自受ける奉給百分の五を規約貯蓄として本会に就て貯蓄すること</p> <p>一史蹟名勝天然紀念物保護に関する件</p> <p>一神職養成に関する件</p> <p>一神社有財産及会計監督に関する件</p> <p>一神社行政に関する件</p>	
		<p>渥美郡長は郡議會を開き左記の訓示事項を定めたり</p>		
	各都市通信	<p>丹羽郡子代代金(丹羽郡書記室田坂)</p> <p>碧海郡神職会の計画</p> <p>八名郡神職会々則</p> <p>海部郡子代代金(海部郡神職会報)</p>		
	教員及辞令	<p>祝詞・御歌</p> <p>歌御会始御願預選歌集</p> <p>神職は高尚なる氣分を要する</p> <p>招先奉拝の難点に就て</p> <p>相互主義</p> <p>何ぞ寥々たる</p> <p>神社と森林</p>		
311	論説	<p>神とは</p> <p>只忠君愛國の爲と奮闘努力すれば疑なく、人生の本務を尽し得ると心得て活動する、外には別々の仔細はなし</p> <p>神ながら言華せぬ國とは日本国の又の名である</p> <p>昔時は公然両刀を手挟んで一身一國を守護したりしが、今日は表面平和を装ふ、而も様に剣を擬しビートルを蔵して他に備へ、機を狙ふものにして今や世界各国國民の心理を洞察せんが爲めには、極めて周到なる注意と犀利なる眼孔とを必要とするに非ざり</p> <p>古往今來一代の文豪者天才と言はれる様な人物で、虚廟な体質を持つて居た者は幾多多い</p> <p>今や歐洲の戦亂も熾み平和の時代に入り、我國の將來も更に愈々多事ならんとするの故である</p> <p>日本は歐米と国情を異にして居るが、故に労働問題労働者の生活問題を解決するよりも、國家中堅たる知識階級の生活問題を解決するが一層急務である</p> <p>神職は高尚なる氣分を要する想を練り学を研ぐことを怠る者に非ざれども如何せん</p> <p>軍人は戦をする者だから、戦に関する學問さへしてあればいい、世の中に通じ世間慣れた人間を作る必要はない、併し乍ら軍人の仕事にも地方勤め者も、地方官民と直接々触して居る故に、軍人としての職務を全うするには、軍事以外の知識に通じて居る方が便利でないとは言へぬ</p> <p>現代の社會は道徳的觀念を失ふて金銭利欲の競鬪道に囚はれたり</p> <p>伊勢神宮皇學館長後任に決定せりと云ふ上田萬年博士は、同館評議員たる關係上同館に対する抱負を談つて曰く</p> <p>神職の冷淡は神職の素質を劣等ならしむる傾向を招くは相當の頭腦のある人材が之に熱心を持します、他の方面に差つて了るからである</p> <p>天下は誰り持ちたよ、今日吾人でなければ人間でない様に願つて居るが、其の歐洲人も華僑も國民たるも土耳耳人、種人との支配下に呻吟した過去もあれば、印度、支那の如き國々も擾亂たる歴史を有つて居るのである</p> <p>勳王家山田大將親彦翁が文久三年五月幕府の手に捕へられ幽囚の身となり、無実の罪を蒙り、徒に獄裡に在るを涙とせず</p> <p>顔の頭も儘心から</p> <p>「君が代」の作謠者に就いて</p>	<p>照本寛</p> <p>玉光女</p> <p>神の道</p> <p>秋山寛夫</p>	
	説園	<p>新古今和歌集略解</p>		
	雑録	<p>「君が代」の作謠者に就いて</p>		岡村親彦
	解説	<p>新古今和歌集略解</p>		
	文苑	<p>現代漢學の森田三島中洲博士の關係</p> <p>波多敷吉相は皇后陛下手づから御親筆の御歌を賜り家族一同恩賜の尋なきを奉獻せり</p> <p>仏教各宗布教者は民力消費の五大要項普及伝道方法協議の爲め六月九日より三週間芝芝真間に会合</p> <p>四十余年間一日の如く恪勤精勵先帝陛下に奉仕して忠節を盡し模範的侍臣と稱せられたる徳大寺實則公は敬告を讀みて後は平賦ヶ谷の閑地に風月を友として余生を楽まれつゝありしが六月四日午後七時八十二際の高齡を以て眠るが如く薨去</p> <p>平野次郎國臣評世の歌</p> <p>明治天皇御治世四十五年間の御製</p> <p>規律と節制とに馴れたる独逸は必ずや何等か奇想天外的方法を以て国力の恢復を図るべし</p> <p>三重県農会郡輪倉村大字東宮にては河村瑞軒記念除穢儀式を行へり</p> <p>伊勢神宮へ戦祈禱を■めたる町村の代表者凱旋軍人在郷軍人會員尚武會員其の他一般平和祝賀の一日を選び神都に集るもの非常に多く参宮者充滿せりと</p> <p>代々木練兵場に於ける平和記念大觀兵式は七月一日午前八時三十分各團駐在武官参列莊嚴に御奉行相成たり隨隊を差許された内閣諸公陸海軍將校同家族在郷軍人同家族學習院生徒其他の学校生徒公共団体役員等無慮五万人の多き拝観者にて練兵場は人を以て滿たさる</p>		
312	講演	<p>祝詞・御歌</p> <p>歌御会始御願預選歌集</p> <p>神社参拝の真意徹底に努力すべし</p> <p>支那旅行談</p> <p>神道と国民道徳</p> <p>其の文壇</p>		<p>萩野由之</p> <p>昌氏氏</p>
	説園	<p>今日我が敬神思想の上に幾多の研究不十分なる点があつて、之が動もすれば不謹慎なる言論を醸す原因となるものである</p> <p>曾て官尊民卑の聲塵なりし当時、人民の官吏を遠する甚だ薄かりしにも拘らず、吏僚は自ら高しとして取て錢を求め、若くは空腹を饜ふるの醜を学ばざり</p> <p>思想的に依つて神道の大真理を宗教的に哲學的に科学的に探究して之を天下に発表することは、例へば現代の俗社會に容れられずとも、其の齟らす所の光明は思想界に永遠に輝き渡る</p> <p>俗業ある人の言行は一身一己である</p> <p>諸種の思想は我が國民精神に影響して、動もすれば其の基礎を動揺せしめんとして居る。此の時に當り我が國民は抑も如何の覚悟を以て其の基礎を養ふべきか、之は我が國民が最も慎重に考へねばならぬ事である</p> <p>惟ふに独逸が從來大に成功したのは、第一過去百年間如何なる苦境にも希望を失はず、只管努力養成に努めた事、第二他に依頼せず、自己に信頼して精神的にも物質的にも自強して發達を為し遂げたる事によるのである</p> <p>神道に於ては我祖同種同族であるから突に奇妙な次第である。由来産業は我國に伝来してより神道用として作られたる者も見ないから、余(仏教)産業を神道産業に利用して居る訳である斯様な不自由な真似をせずとも、我神道には立派に古来より莊嚴優麗は音楽が存在して居る</p> <p>米國のポーニー博士が自由思想の發展に三時期を區別した</p> <p>昔から折れくずれと申して居る。病氣になつた時は神様に御祈りして平癒を頼め、併し神様に御祈したのみでは直らぬ、自分は自分として薬を求め、出来るだけの療治をせよと教へられ居る</p>		
	解説	<p>新古今和歌集略解(つゞき)</p>		
	文苑	<p>三十一代和歌集について(續)</p> <p>平和を復奉る祭文(日清戦後)</p> <p>飲酒談</p> <p>和歌</p>		<p>藤原経</p> <p>内海辰司</p> <p>葉良作</p>
		<p>八月廿九日齋藤朝鮮總督水野總監は夫人帯同にて鹿島立の前伊勢神宮へ正式参拝せられたり</p> <p>講和特使西園候は八月廿七日天皇陛下に拝謁仰付られ講和会議の経過に關し伏奉せられたるが陛下には御嘉賞ましまして是れも左の優詔を賜はりたりと申す</p> <p>空中射撃班は寒戦の難題に依り此難題を解決した仏國では優良の射手を得んが爲め一人に十萬発の弾を與ふる又難題を破るには其飛行機を同じ高さと同じ速力にして常に真直ぐに保つて飛行すると云ふことが絶對の難事である不同があれば難題は命合せぬ云々</p> <p>朝鮮總督一行は九月二日午後五時京城南大門に到着</p> <p>九月六日臨時神宮祭主大勲位多嘉王殿下には神宮祭主に御昇任あらせられたりと申す</p>		

	<p>東京市小学校全部構内運動場に於ける機械的形式的体操を全廃し一週一度完全校生を郊外に幸み清澄なる空気中に遊戯運動をなさしめ体格を優良に導くこととせり</p> <p>大雷雨の際 佐倉市に於ける民力漁養施設事項中神社に関するもの 八月廿七日大山城址に建設せられたる敬業山伴男先生建碑除幕式を挙行せられたり 七月六日松平小学校校庭内に建設せられたる坂本七郎氏頌徳碑除幕式行はれたり 九月十三日午前十時新任丹羽郡長根長太郎氏は着任奉告の爲め國幣中社大泉神社へ正式参拝せられたり 九月八日東京市主催歡迎會席上に於て述べられたる西園寺侯演説概要 新嘗祭に献納すべき粟抜穂式は九月九日午前十時海部郡永和田村新田に於て挙行せられたり 朝鮮總督府警備課長古橋氏私儀の一節 南設楽神職會事 式部送第一三七四号を以て官幣社例祭並官幣社祈年新嘗祭に御奉納の幣帛神饌料左紙の通り御改定大正九年より實際の通儀ありたり</p>		
315	<p>御製・御歌 官幣社幣帛料増額の御慮儀に副ふべし 神道の研究に与ふる宗教学の貢献 神社社の創建に就て</p>		<p>加藤玄智 照本金川</p>
	<p>論説 知識と思想とは別個のものである、知識を売物とし商品視するのは正当な行為である 我が先づ今の我を悉く知らねばならぬ 宗教は現在のみに對する宗教ではいけぬ、無論未來のみに就ての宗教でもいけぬ、過去未來現在の三世を涵して始めて純正宗教の尊嚴がある。 國際連規約の前文 古來革命の原動力は等しく食糧の不足に因す 我等は農業の殖産は國家繁榮の原動力たるを確信する 食糧の増産よりも衣類の暴騰は更に甚しい、吾國では絹物よりも綿物の騰貴率が一層甚しい 同じ種類の米でも穀地を異にして厚れば、同様な米が出来ぬ 同じ日本人同志でありながら、隣を笑ひ向を誹り、美を隠し非を挙げ、親子互に争ひ朋友互に排するものあり 新古今和歌集略解</p>		
	<p>説園 丹羽郡長者任奉告祝詞 乃木神社御祭歌歌 海部郡空野町宇高上篤農家飯部金吾氏奉納の新嘗祭飯田抜穂式 瓜田航空師將校十五名は佛國に付十月三日午前十時半参内陛下に拝謁仰付られたりと申す 米國海軍卿タニエル氏は聲明して曰く太平洋洋視察の結果として乾船渠及軍港の建設並に造船所の建設を議會に要求して二大軍港を建設し太平洋艦隊の二根拠に勞務艦を配置し駆逐艦水雷艇補助艦等は北太平洋を根拠地とすべし 群馬県典講究分所にては神宮神部署群馬支署長長井福應氏着任以來刷新に努め近く夫々幹部の組織成るを俟つて殿下現任神職の学術式典の講習園学に関する公開演説官公吏氏子惣代の礼法講習人養成歌道の奨励等をなすと云ふ 大阪市長池上氏は市の重立てる神職を招致して教化事業懇談會を開き一年二十四回神社を學校に於て通曉講義を行ふことを定めたり 十月五日山田十五郎に投宿せる柳原二位局は翌日午前八時白輪子の組に録の袴を着け馬車にて外宮に向ひ修祓を受け正式参拝をなし更に内宮に向ひ修祓の受け内五垣御門前奉仕官拜所に進み悉く拜礼して神樂殿に至り神樂を奏して佛館せられたりと 天皇陛下には朝鮮總督府管内暴風雨の被害ありしを聞食され御禮金一千五百圓御下賜相成たりと申す 十月五日午前十一時宇品軍用棧橋に上陸凱旋せられたる大庭中将出迎の爲め畏き辺り御差遣の侍從武官より「第三師團西伯利亞出征中寒暑勞苦に耐へ克く其の任を究るし事を嘉す」との聖旨依違を受け之に對して大庭中将は第三師團を代表して御礼を言上せる旨侍從武官を経て執奏を乞ふと答れせられたりと 新嘗祭神前供御献納の米(一粟)粟(五合)は奉納者海部郡空野町飯部金吾(米)同郡永和田村伊藤俊一(粟)両氏より献納に付十月十五日泉庁に於て宮尾知事の受納式ありたり 伊勢神宮参拝を終り二見ヶ浦に清涼中の柳原二位局 出征第三師團長大庭中将は十月八日午後一時四十分古屋軍用特別列車にて凱旋せられたりと 十月一日名古屋市長並に書記數名は夫々御番を定めて市内村社以上の神社へ参拝して市制實施三十年祝賀奉告祭を行ひ幣帛を供進したりと 碧海郡六ツ美村に於ては九月二十日祭祀齋田記念祭を挙行し宮尾知事以下多數参列して莊嚴に祭式を行へり 尾張蒲原郡公事部蒲原神社建設 出征第三師團凱旋終了に付十一月五日北練兵場に祭場を建設し今回の戦役に名譽の戦死又は病没せられたる勇士の英靈を吊祭する爲め臨時招魂祭を執行せられたりと 大正九年宮中歌御會始御題 天皇陛下には十月二十三日午前九時二十五分宮城御出門海軍大演習御統載の爲め行幸 十月二十日午前十時宮中裏御座所に於て伏見宮殿下を始め奉り山縣長谷川村長各元帥に 陛下より夫々元帥刀御親授 今回東京高等師範学校講堂に於て開會せられたる全国中学校長會議 前文大臣現國學院大學長小松原英太郎氏は斯文會々長の名義を以て今回東京中の中学校長を主幹幹事に招待して論述中四年制度に反対せられんと云ふ希望 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 伊勢神宮皇學館は兼て新築中なりしが工成しを以て十月十八日午前十時莊嚴なる落成式を挙行せられたり 皇后陛下には民情に御心を寄せ給ふ事は普く臣民の感泣し奉る所ながれ殊に貧病を患ふに苦しむ赤十字病院其他慈善教員士の病院へ時々行啓あらせられ御脚し敷心懸いて患者を治し給ふ御仁心御徳に感念を盡し奉り 十一月十五日宮内省宗務寮より今日大嘗會開儀奉勅皇志士碩学海部百余名に對し夫々贈位又は位階追進の御沙汰ありたり 天皇陛下には故事内正殿御へ左の御沙汰書を賜る 天皇陛下には十一月七日午後一時半宮内御用係清水澄博士を御前に召させられ憲法の御進講を聞き召し給へりと申す 陸軍中央幼年学校御在学中の教習殿下には十一月四日より習志野に御出張外演習に御参加あらせられ一般生徒と共に御備泊遊ばされたりと 皇太子殿下には十四日午前九時三十分御出立上陛下と御同列にて須磨俣停車場御発車伊丹駅御乘車御愛護に職打せ給ひて御野立所に成らせられ最後の觀禮觀覽あらせられ演習終了後御還歸に御参列 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 海軍を以て紙を製する事發明せられたるに就き新業に経験深き某博士は此の發明は海軍に打ち擧げられた海軍が白色に變化する作用から思ひ立つて研究せるもので最近發見なる製紙原料のハルツの發明を遂げたのである 國際労働會議委員は十月四日付を以て鎌田栄吉武蔵山治折本卯平以下二十七名に任命せられたり 文部省に於ては明年年度予算に宗教法制定に関する調査費八千四百圓を計上し世界各國に於ける宗教制度及我國宗教各派の制度並に徳川時代の宗教制度を調査する爲め宗教家法学者等を委員として調査會を設置する意圖なりと云ふ 労働者の一団何れも幕幕の蕭蕭と云ふ風体にて大隈侯を訪問して労働問題に對する御高見拝察と出た時はア夫れは本月の大隈へ書いてある夫れ見て呉れと云はれ一づつ手紙にてサア彼方で繰り返り至へ云ひ捨て其の中の印半紙を着た一人に向つて書付けは感心され其れは更の洋紙で君達の新聞社と會められたので一同口アグリであつたと云ふ何れも職業其物に對し夫々自然に適合せる身份の定められるものなり遂に乞食に朱砂と云ふことあり相応せぬ身份をなすは却つて品格を落とすものなり 帝國教育會にては近時思想問題の混亂動搖を救ひ教育者に一道の光明を与へん爲め法學博士寛政吉野作造福田三氏其他教員を顧問として思想問題研究會を組織し今問題の中心たる個人主義社會主義及び女子の解放問題等を研究する計劃なり 十一月十一日名古屋港に來り四日間艦内を觀覽せしめた独乙より捕獲せし潜航艇の重なる装置は左の如しと云ふ 内務省明年年度予算中小橋次官の談なりと云ふ 世界の最巨艦なる長門(四万噸)の進水式は十一月九日吳軍港に於て挙行 十二月十一、十二日通常協議委員會を愛知県教育協會會場に於て大正九年年度收支予算議決、大正七年度收支決算認定及協議事項並に諮問事項を決議し午後五時より東海樓に於て渡邊副会長の催別の宴を催したり</p>		
	<p>文苑 乃木神社御祭歌歌 海部郡空野町宇高上篤農家飯部金吾氏奉納の新嘗祭飯田抜穂式 瓜田航空師將校十五名は佛國に付十月三日午前十時半参内陛下に拝謁仰付られたりと申す 米國海軍卿タニエル氏は聲明して曰く太平洋洋視察の結果として乾船渠及軍港の建設並に造船所の建設を議會に要求して二大軍港を建設し太平洋艦隊の二根拠に勞務艦を配置し駆逐艦水雷艇補助艦等は北太平洋を根拠地とすべし 群馬県典講究分所にては神宮神部署群馬支署長長井福應氏着任以來刷新に努め近く夫々幹部の組織成るを俟つて殿下現任神職の学術式典の講習園学に関する公開演説官公吏氏子惣代の礼法講習人養成歌道の奨励等をなすと云ふ 大阪市長池上氏は市の重立てる神職を招致して教化事業懇談會を開き一年二十四回神社を學校に於て通曉講義を行ふことを定めたり 十月五日山田十五郎に投宿せる柳原二位局は翌日午前八時白輪子の組に録の袴を着け馬車にて外宮に向ひ修祓を受け正式参拝をなし更に内宮に向ひ修祓の受け内五垣御門前奉仕官拜所に進み悉く拜礼して神樂殿に至り神樂を奏して佛館せられたりと 天皇陛下には朝鮮總督府管内暴風雨の被害ありしを聞食され御禮金一千五百圓御下賜相成たりと申す 十月五日午前十一時宇品軍用棧橋に上陸凱旋せられたる大庭中将出迎の爲め畏き辺り御差遣の侍從武官より「第三師團西伯利亞出征中寒暑勞苦に耐へ克く其の任を究るし事を嘉す」との聖旨依違を受け之に對して大庭中将は第三師團を代表して御礼を言上せる旨侍從武官を経て執奏を乞ふと答れせられたりと 新嘗祭神前供御献納の米(一粟)粟(五合)は奉納者海部郡空野町飯部金吾(米)同郡永和田村伊藤俊一(粟)両氏より献納に付十月十五日泉庁に於て宮尾知事の受納式ありたり 伊勢神宮参拝を終り二見ヶ浦に清涼中の柳原二位局 出征第三師團長大庭中将は十月八日午後一時四十分古屋軍用特別列車にて凱旋せられたりと 十月一日名古屋市長並に書記數名は夫々御番を定めて市内村社以上の神社へ参拝して市制實施三十年祝賀奉告祭を行ひ幣帛を供進したりと 碧海郡六ツ美村に於ては九月二十日祭祀齋田記念祭を挙行し宮尾知事以下多數参列して莊嚴に祭式を行へり 尾張蒲原郡公事部蒲原神社建設 出征第三師團凱旋終了に付十一月五日北練兵場に祭場を建設し今回の戦役に名譽の戦死又は病没せられたる勇士の英靈を吊祭する爲め臨時招魂祭を執行せられたりと 大正九年宮中歌御會始御題 天皇陛下には十月二十三日午前九時二十五分宮城御出門海軍大演習御統載の爲め行幸 十月二十日午前十時宮中裏御座所に於て伏見宮殿下を始め奉り山縣長谷川村長各元帥に 陛下より夫々元帥刀御親授 今回東京高等師範学校講堂に於て開會せられたる全国中学校長會議 前文大臣現國學院大學長小松原英太郎氏は斯文會々長の名義を以て今回東京中の中学校長を主幹幹事に招待して論述中四年制度に反対せられんと云ふ希望 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 伊勢神宮皇學館は兼て新築中なりしが工成しを以て十月十八日午前十時莊嚴なる落成式を挙行せられたり 皇后陛下には民情に御心を寄せ給ふ事は普く臣民の感泣し奉る所ながれ殊に貧病を患ふに苦しむ赤十字病院其他慈善教員士の病院へ時々行啓あらせられ御脚し敷心懸いて患者を治し給ふ御仁心御徳に感念を盡し奉り 十一月十五日宮内省宗務寮より今日大嘗會開儀奉勅皇志士碩学海部百余名に對し夫々贈位又は位階追進の御沙汰ありたり 天皇陛下には故事内正殿御へ左の御沙汰書を賜る 天皇陛下には十一月七日午後一時半宮内御用係清水澄博士を御前に召させられ憲法の御進講を聞き召し給へりと申す 陸軍中央幼年学校御在学中の教習殿下には十一月四日より習志野に御出張外演習に御参加あらせられ一般生徒と共に御備泊遊ばされたりと 皇太子殿下には十四日午前九時三十分御出立上陛下と御同列にて須磨俣停車場御発車伊丹駅御乘車御愛護に職打せ給ひて御野立所に成らせられ最後の觀禮觀覽あらせられ演習終了後御還歸に御参列 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 海軍を以て紙を製する事發明せられたるに就き新業に経験深き某博士は此の發明は海軍に打ち擧げられた海軍が白色に變化する作用から思ひ立つて研究せるもので最近發見なる製紙原料のハルツの發明を遂げたのである 國際労働會議委員は十月四日付を以て鎌田栄吉武蔵山治折本卯平以下二十七名に任命せられたり 文部省に於ては明年年度予算に宗教法制定に関する調査費八千四百圓を計上し世界各國に於ける宗教制度及我國宗教各派の制度並に徳川時代の宗教制度を調査する爲め宗教家法学者等を委員として調査會を設置する意圖なりと云ふ 労働者の一団何れも幕幕の蕭蕭と云ふ風体にて大隈侯を訪問して労働問題に對する御高見拝察と出た時はア夫れは本月の大隈へ書いてある夫れ見て呉れと云はれ一づつ手紙にてサア彼方で繰り返り至へ云ひ捨て其の中の印半紙を着た一人に向つて書付けは感心され其れは更の洋紙で君達の新聞社と會められたので一同口アグリであつたと云ふ何れも職業其物に對し夫々自然に適合せる身份の定められるものなり遂に乞食に朱砂と云ふことあり相応せぬ身份をなすは却つて品格を落とすものなり 帝國教育會にては近時思想問題の混亂動搖を救ひ教育者に一道の光明を与へん爲め法學博士寛政吉野作造福田三氏其他教員を顧問として思想問題研究會を組織し今問題の中心たる個人主義社會主義及び女子の解放問題等を研究する計劃なり 十一月十一日名古屋港に來り四日間艦内を觀覽せしめた独乙より捕獲せし潜航艇の重なる装置は左の如しと云ふ 内務省明年年度予算中小橋次官の談なりと云ふ 世界の最巨艦なる長門(四万噸)の進水式は十一月九日吳軍港に於て挙行 十二月十一、十二日通常協議委員會を愛知県教育協會會場に於て大正九年年度收支予算議決、大正七年度收支決算認定及協議事項並に諮問事項を決議し午後五時より東海樓に於て渡邊副会長の催別の宴を催したり</p>		
	<p>業報 大正九年宮中歌御會始御題 天皇陛下には十月二十三日午前九時二十五分宮城御出門海軍大演習御統載の爲め行幸 十月二十日午前十時宮中裏御座所に於て伏見宮殿下を始め奉り山縣長谷川村長各元帥に 陛下より夫々元帥刀御親授 今回東京高等師範学校講堂に於て開會せられたる全国中学校長會議 前文大臣現國學院大學長小松原英太郎氏は斯文會々長の名義を以て今回東京中の中学校長を主幹幹事に招待して論述中四年制度に反対せられんと云ふ希望 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 伊勢神宮皇學館は兼て新築中なりしが工成しを以て十月十八日午前十時莊嚴なる落成式を挙行せられたり 皇后陛下には民情に御心を寄せ給ふ事は普く臣民の感泣し奉る所ながれ殊に貧病を患ふに苦しむ赤十字病院其他慈善教員士の病院へ時々行啓あらせられ御脚し敷心懸いて患者を治し給ふ御仁心御徳に感念を盡し奉り 十一月十五日宮内省宗務寮より今日大嘗會開儀奉勅皇志士碩学海部百余名に對し夫々贈位又は位階追進の御沙汰ありたり 天皇陛下には故事内正殿御へ左の御沙汰書を賜る 天皇陛下には十一月七日午後一時半宮内御用係清水澄博士を御前に召させられ憲法の御進講を聞き召し給へりと申す 陸軍中央幼年学校御在学中の教習殿下には十一月四日より習志野に御出張外演習に御参加あらせられ一般生徒と共に御備泊遊ばされたりと 皇太子殿下には十四日午前九時三十分御出立上陛下と御同列にて須磨俣停車場御発車伊丹駅御乘車御愛護に職打せ給ひて御野立所に成らせられ最後の觀禮觀覽あらせられ演習終了後御還歸に御参列 三河國碧海郡矢作町蓮華寺和志山なる皇行天皇皇子氣入産命の御陵墓と言伝ふるは文政天保の頃三河の學者羽田野敬雄翁が氣入産命の御墓地搜索せんと各地を調査し此の地に來り志塚王塚といへるを発見し古記録を參考とし初めて墓標を建てたり 海軍を以て紙を製する事發明せられたるに就き新業に経験深き某博士は此の發明は海軍に打ち擧げられた海軍が白色に變化する作用から思ひ立つて研究せるもので最近發見なる製紙原料のハルツの發明を遂げたのである 國際労働會議委員は十月四日付を以て鎌田栄吉武蔵山治折本卯平以下二十七名に任命せられたり 文部省に於ては明年年度予算に宗教法制定に関する調査費八千四百圓を計上し世界各國に於ける宗教制度及我國宗教各派の制度並に徳川時代の宗教制度を調査する爲め宗教家法学者等を委員として調査會を設置する意圖なりと云ふ 労働者の一団何れも幕幕の蕭蕭と云ふ風体にて大隈侯を訪問して労働問題に對する御高見拝察と出た時はア夫れは本月の大隈へ書いてある夫れ見て呉れと云はれ一づつ手紙にてサア彼方で繰り返り至へ云ひ捨て其の中の印半紙を着た一人に向つて書付けは感心され其れは更の洋紙で君達の新聞社と會められたので一同口アグリであつたと云ふ何れも職業其物に對し夫々自然に適合せる身份の定められるものなり遂に乞食に朱砂と云ふことあり相応せぬ身份をなすは却つて品格を落とすものなり 帝國教育會にては近時思想問題の混亂動搖を救ひ教育者に一道の光明を与へん爲め法學博士寛政吉野作造福田三氏其他教員を顧問として思想問題研究會を組織し今問題の中心たる個人主義社會主義及び女子の解放問題等を研究する計劃なり 十一月十一日名古屋港に來り四日間艦内を觀覽せしめた独乙より捕獲せし潜航艇の重なる装置は左の如しと云ふ 内務省明年年度予算中小橋次官の談なりと云ふ 世界の最巨艦なる長門(四万噸)の進水式は十一月九日吳軍港に於て挙行 十二月十一、十二日通常協議委員會を愛知県教育協會會場に於て大正九年年度收支予算議決、大正七年度收支決算認定及協議事項並に諮問事項を決議し午後五時より東海樓に於て渡邊副会長の催別の宴を催したり</p>		

316		御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		新年を迎ふ			
	講演	神道と国民道徳に就て(掲載)			百理堂三郎
		探道に就て(掲載)			大原重明
	説園	探道など云ふこと			
		国民の思想			
		吾国の婦人			
	雑録	今回県議会副会長堀尾茂助氏宛起して安城農学校校長山崎延吉氏が、多年農業に貢献した功勞に酬みん為謝恩会なるものを組織して自願有志者の参集を催し、第一回協議会を開けりと言ふ			
		碧海郡神職会は今回左記の事項を決議し実行に着手せりと云ふ			
		官幣幣社神職に対し七割以内の手当を支給することし財源は予備金の積立額を減らして充てんとす			
		抑も山東問題とは何ぞや我々國人は悉く其の内容を明せるも議論の順序として之を略述せん			
		徴兵猶予規定			
	龍舟	新古今集略解(続)			
	文苑	人嘗奉告祭祝詞案			小林十太郎
	故臨時宮内省主官陽宮邦憲王第一王子賀陽宮恒憲殿下には満二十歳に達せらるゝを以て御成年式規定に基き賀所大前に於て行はせらるゝを御都合により三月御御参行遊覧を命じしとす				
	海軍神道會改築奉告書案第一宮村鎮座國幣小社砥鹿神社にしては本宮山の上の奥宮改築を計画し既に奉賛會を組織して善く會員を募集申なりしが今回皇室林野管理局より御用材払下の許可を得たれば去る十二月十七日日本宮山に於て改築奉告及び山入の祭典を敬肅に執行し引續き伐木に着手せり				
	陸軍大將大勲功二級陸院宮戴仁親王殿下には十二月十二日午前十時御参内天皇陛下より元帥称号を受けさせられ次いで元帥徽章並に元帥刀御親授あらせられたりとす				
	十二月十五日午後四時三十分より宮中賀所大前に於て御神樂の儀行はせられ天皇皇太后陛下には御親拝あらせられ各皇族殿下を始め奉り大勲位各國務大臣以下拝禮あり六時より雅奏部員出仕御神樂を奉せりとす				
	新愛知県理事官重信文敬氏は十二月十四日午後零時半名古屋列車にて着仕直ちに熱田神宮へ参拝せられたる上夫々諸官庁等に挨拶せられたりと				
	愛知県人にして皇典講究所より学歴を授けられたる者				
	大正八年十二月十二日通常協議会開會席上に於て大正九年全國神職會及五縣連合神職會に出席すべき代表者選出郡市の抽籤を行はるに左の如し				
	一月廿六日より四日間皇典講究所に於て大正九年度全國神職會臨時總會を開くとす				
	文部省に於ては多年の懸案たる宗教法の制定に努力しつゝありと一日も其の速ならんことを望む				
	愛知県にても神職の俸給其他給与規程外三四件の改正をなす意向あるものと如しと聞く				
	客臘十二月十一日に招集せられたる本会協議員は二日に涉り審議談合したるが議員諸君の希望等多々ある中に雜誌の改革発展に於ては多数者の賛成あり				
	而して各郡市通信を掲載せられたしと編輯子或は言はん議員諸君願くは佛郡の上詳細にして且つ有益なる通信の投稿に全力を注がれし機関雜誌の本報を發揮するに由なからしむものは各郡市神職會にあらざるなきか然かも恬然として主張する処流石は議員なり				
	本会に於ては今度皇下各官國幣幣社司を本会發動員に推薦せられたりと				
	國幣中社真清田神社司中村彈男氏は今度本県皇典講究所試験委員に推挙せらるゝといふ				
	客年十二月十一日開催せられたる通常協議員會に於ては時勢の進運に順応すべく神職養成部の改築及皇郡市神職會の運営方法等につき審議せりと				
	神職優遇方につきは本県より廣々郡市長へ通牒ありたるが今般本会長よりも本性につき精に引頭の如き依頼状を呈せり				
	神職優遇問題の声漸く大ならんとするの時郡市神職又は神職希望者中には暗中飛躍を試みて神職候補推薦方につき競争するものありと競争必ずしも悪しきにあらず只是れが為遂に俸給支給の助行を阻害するのみならず相共に倒るゝの悲惨事を慮すに當るべきを要ふ				
	神職優遇に関する依頼状案				
辞令	石ノ浦現任セラル				
附録	大正九年度収支決算書				
	大正七年度収支決算書				
317		御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		詠勅			
		神職の地位向上と使命			
	論説及講演	天然記念物の保存に就て(掲載)			三好宇
		社会問題の悪化(掲載)			熊本金川
		不良少年と家庭とは如何なる関係を持つてあるかに就いて少く語つて見たいとす			
	説園	戦争の影響たる極めて深刻物質方面よりすれば食糧問題あり、労働問題あり、精神方面よりすれば思想問題あり			
		我國の人口			
		人間の價値は低い			
		改造すべき細目は一にして足らず			
	文苑	社会の人心			
	雑録	土方伯一周年祭歌詠			
		出羽の羽織			
		巖に國母陛下より東京慈惠病院濟生會福田赤十字病院等へ夫々患者の爲め服地と裁縫科御下賜の御恩に浴したれば三田四國町なる戸板裁縫女学校に於て各生徒に一着宛縫製せしめ病院にては正月の晴着に患者一同へ頒ち与へたりとす			
	伊勢神宮別館は山田士に創建し後姫命を奉祀すべく継続事業四十万円を以て工事を終すことに決定し内務省は大正九年年度の予算に九万円計上せりと				
	皇族殿下御成歳に達せらるゝ時は貴族院議員の議席を占めらるゝ例なるが朝鮮玉族殿下に對しては未だ何等の規定なきを以て目下王家規程制定中なりと				
	官國幣幣社神職にして十五年以上奉任又は奉任待遇以上となれる者は現在五十名ありといふ又府県以下神社々々社掌中の奉任待遇に就ては有資格者より地方庁之を發給し内務大臣に内申の上任命せらるゝと				
	一月四日御政事始式は例年の如く先づ宮内大臣より神宮の祭祀につき上奏せるが其の上奏文は左の如しとす				
	一月十七日午前十時宮中鳳凰の間に於て新年歌御会始の儀を行はせられ一月五日宮中新年御宴會に召せらるゝ有資格者増加し御歌手数に付き本年より意欲官一等以下御歌手連年半数以上交互に召せ給ふこととなり				
	津島神社屋敷の件につき客臘十九日多田津島町長及堀田社掌は相携て上京し内務當局其他諸士等に面談し大に陳述せる処ありたりと				
	伊勢神宮皇日祭奉仕の模様				
	客臘廿六日吾が皇典講究所長たりし芳川頭正伯露去せられたり				
	今回預選の光榮に浴したる知多郡大府町相木賢三氏は御歌所寄人大口鶴二井上通泰両先生と師として多年研究されたる歌人なりと又岐阜県土岐郡笠原村加藤明君は未だ九歳の小童にして全くは父の習作せしなりと				
	南洋諸島は民政を布かるゝに付土民教化の爲日本基督教宣教師を派遣することとなり政府は其人選中なりと				
	賢き臣にては世界恒久の平和確立せられたるに付き連合列國と共に其の御喜びを頒たせ給ふべく皇族中より平和使節を連合國皇帝及び政府に向け御派遣あらせらるゝ御内定				
	丹羽神職會は一月十日郡役所議事室に於て月次會を開き神祭を行ひ終て新年宴會を催したりと				
	海部郡神職會は一月十日郡會議事室に於て例會を開き神功勞者表彰式を行ひ新年の祝賀を催せりと				
	本年に於ては存記日單を以て神社の会計検査を施行せられたり				
	告示第二十八号	左記神社神職常備料供進神社二指定セラル			
	告示第二十九号	左記神社社会二間ノ規定ヲ適用スルニキ神社二指定セラル			
	内務省令第二十七号	史蹟名勝天然記念物保存法施行規則			
	神職/優遇				
	叙任辞令				
318	大正9年3月10日	御製・御歌			
		歌御会始勅願精選歌集			
		府県以下神職常備料増額を望む			
	学説	すみ川			池野英介
		土佐日記の附注			
	雑録	私言漫言			
		夏日東京に於て開かれたる全國神職會臨時會議			
		折年祭幣帛神額料			
		李王子世子御婚儀			
		議院地録祭			
		虎眼予防法施行細則			
		泉道確定			
	断片集	此頃朝鮮人の口から純日本主義と云ふ主張が盛になつたのは注目し得る			
		物價騰貴に苦しむ生活難の聲			
		十年後には米が千六百余石要が千余石不足する			
	海外移民さへすれば我國は永遠食糧問題に困る事懸念はないと主張する論者				
	全國各宗の重立つた僧侶等發起して株式会社仏教伝道社を組織				

	文苑	和歌			
	各都市通信	<p>名古屋市神職並に市内名望家有力量を以て組織せられたる皇道会</p> <p>知多郡神職会は二月八日郡役所議事室に於て定期総会を開き議題として大正九年度予算並に左の件を提出し満場異議なく可決し其他諸般の打合せを午後四時閉会せり</p> <p>東葉郡宮田大明神大正九年度取支予算総額</p> <p>丹羽郡長根菜氏は各町村長を郡衙に召集して指示並に注意せられたる事項中左の通り神職に関する項あり</p> <p>丹羽郡犬山町三光稲荷神社へ一木木達高麗犬一対献納せんとて目下有志者奔走中なり</p> <p>東葉郡教会は郡長を会長に載き各町村長之が幹事の労を取り会員募集す</p> <p>丹羽郡池野村尾張富士窪間神社は旧正月元日積厚健全祈禱祭を執行したり</p> <p>丹羽郡桑田村國幣中社大縣神社は旧例により旧正月二日田打祭を執行したり</p> <p>八名郡神職会には本年度より左記の事業を計画し之が遂行を期するため経費の内へ懇費補助を申請したるに過般郡会に於て補助金を議決せられたり</p> <p>岡崎市南町徳王稲荷神社にては神社を中心として敬神崇祖の念を養成し忠孝の徳を待せしめんとし第二の国民たる児童を集め敬神オトギ会を昨年二月創設し茲に一周年記念会を紀元節の佳節を以て挙行せり</p> <p>神社合併</p> <p>二月廿二日知多郡半田町の神職榊原五十枝翁遠逝せらる</p>			
319	叙任辞令 計報	叙任辞令 祭神ニ事ヘズ			
		愛知國學院本館新築計画圖			
		御製・御歌			
		告辞			
		神職に望む			小幡聖治
		式辞			野田晋廣
		国史の尊重			芳賀矢一
		個人責任感と社会奉仕の精神			加藤玄智
		紀念記事			
		成人の新築せし座敷開きを兼ねて初老の賀宴を開けるをこほきてよめる長歌並短歌			知佳
		養成年卒業請氏に決りまあらすとて			栄上
		常気燈			村上義重
		第三師団招魂祭の当日名古屋市東区榑木町鈴木義方主の神前に手向られし詩歌			
		合祀祭奉告祭祝詞			
		合祀祭祝詞			
		合祀祭	五月二十一日本会々員中故人となられたる左記人名を市内中区古渡町村社稲荷社境内の本会集議に合祀せり		
		事務囑託	本会の事務を囑託せらる		
		懇談会	六月九日午前九時より各都市神職会長及本会協議員の連合懇談会を俱會議事室市部會議場に開催し左の件につき協議を為せり 一、神職養成部ヲ愛知國學院ト改稱ノ件 二、愛知國學院新築ノ件 三、愛知國學院新築費募集ノ件		
		協議員会	同日午後一時より本会協議会を同所に開催し左の事項を可決せり 一、神職養成部ヲ愛知國學院ト改稱ノ件 二、愛知國學院新築ノ件 三、新築費募集ノ件 四、懇費補助額申請ノ件 五、規約改正ノ件 六、愛知國學院新築費募集補助申請ノ件 七、愛知國學院新築費へ基本財産千九百円(有価証券額面)ヲ活用ノ件		
		國學院新築費募集			
		招魂書			
		愛知國學院新築費御補助二付申請			
		補助金増額ノ儀二付申請			
		碧海郡寺社課に於ては三月七日より郡内各神社大正八年度会計に関する書類調査を行ひたりと			
		丹羽郡尚武会主催戦病死者招魂祭は三月十九日表忠園忠魂碑前に於て執行せられ丹羽郡神職会以下会員全部出勤莊嚴なる祭典を行へり			
		丹羽郡役所にては郡内各町村役場へ出張して各指定神社の帳簿検査を行はれたり			
		丹羽郡神職会は三月三十一日総会を開き大正九年度歳入歳出予算案を決議したり			
		丹羽郡長松本伊織氏は岩田書記を従へ三月三十一日午前九時國幣中社大縣神社へ責任奉告の爲め参拝せられたり			
		西春日井郡農会の施設			
		西春日井郡神職会にては本年度より視察費を設けたりしが去月廿七日より二日間会員三名に対し神社設備の状況視察の爲め遊覧團へ派遣せり			
		丹羽郡神職会にては今回知多郡神職会の事業及神社の状況等を視察せしむる爲め倉地辰彌、村親要、安藤田島、在藤隆太郎書記一名を派遣せり			
		名古屋市茶屋町東東照宮にては毎年寄附金に拠りて大祭の経費を支出し來りたるも今回之が基本を募りたるに金三万八千二百十七円の寄附金を得たりといふ尚右寄附金は金四万円に達する見込みなりといふ			
		勸学祭			
320		明治神宮鎮座祭祝詞			
		真清田神社と尾張人士			中村理男
		取組協議会の所感			中野生
		祭式要略			中村賢司
		小学校児童二神社参拝ノ意義ヲ徹底セシムル適當ナル方法			愛知県神職会
		歌つと			
		宮庫知事訓示要旨			
		明治神宮御造営略記	御造営経過 照憲皇太后合祀 明治神宮創立 御鎮座地 御造営費 祭儀 御神宝及裝飾 社殿並建物		
		明治神宮案内記	宝物殿 周圍土台 奉賛会設立 献金額 外苑工事 葬場殿址記念建造物 聖徳記念絵巻館 憲法記念館 競技場 明治神宮御鎮座祭 明治神宮鎮座祭式 今上天皇明治神宮御参拝 皇后陛下明治神宮御参拝 明治神宮御造営奉仕青年團 明治神宮参拝		
		本会夏期講習会			
		第十五師団招魂社			
		招魂祭々式			
		退館碑除幕式			
		指定神社以外の神社に玉串奉奠			
		丹羽郡神職会講演			
		碧海郡神職会講演			
		八名郡神職会講演			
		東三市二郡連合神職夏期講習会			
		西加茂郡神職講習会			
		西春日井郡神職大会			
		海部郡神職会平和回復祭			
		丹羽郡青年団幹部講習会員の奉告祭			
		高宮神社拜禮			
		任合議員の立誓式			
		稲山社員昇進授賞会			
		碧海郡神職会追加予算			
		中島郡神職会規約			
		明治神宮創祭式	内務省令第三十五号		
		常額料供進増額	内務省令第二十四号		
		内務省令第二十五号			
		内務省訓令第十四号			
		計報			
		御製・御歌			
		社頭歌			
		遺歌			
		伊勢両宮建築に就きて			伊藤忠太
		真清田神社と尾張人士(前号続き)			中村理男
		四方様元始祭大鼓二鼓キテ			小林木十郎
		青年団学生団の神社参拝に就きて			中野周次郎

		歳日祭に奉仕して		小林太十郎
		元日の所感		松浦此太郎
		明治神宮参拝所感		中野知佳
		原首相の年頭所感		
		原中元		
		二日祭の御儀		
		元始祭		
		伊勢神宮歳日祭		
		熱田神宮講宮		
		眞清田神社の年始		
		津島神社の年始		
		尾張大國霊神社の年始		
		伊勢神宮御造替	御造替総経費 工事完成期 祭式及準備	
		尾崎殉難者義捐金建碑寄附金		
		今年の月次歌題		
		車典講究所愛知分所試験委員		
		加藤直久氏		
		海軍志願兵の将来		
		理事会開催		
		青年救済講習会奉告祭		
		丹羽郡青年会幹部講習会発会式祝詞		
		御神田水品拜会		
		神事と時間旅行		
		オトキ運動会		
		神職懇談会		
		神職会表彰		
		叙任及許令		
323号	大正10年	啓示		川口彦治
		式辞		野田重磨
		祝辞		大島多重之助
		訓示		山田肇一郎
		祝辞		川口彦治
		祝辞		一木喜徳郎
		祝辞		小橋一太
		五県連合神職会議案		
		五分間演説		
		五分間演説総評		
		名古屋神社の拝観		
		来賓と会員		
		繪葉書其他の寄贈		
		香贈金		
		勲績者及献納者表彰		
		表彰者都市別表		
		懇親会		
		五県連合神職会規約		
		我々の歴史と理想とに就きて		
		総裁推薦報告		井上哲次郎
325号	大正10年	愛知国学院校舎建設寄附金募集要書		
		愛知国学院の設置を祝して		中村強男
		内務省神職講習会講習員の覚悟と其の活用		中村周次郎
		内務省主催講習会概況		柴田龍正
		所感		加藤生
		採茶		青穂
		現海郡神職会月次研究和歌		
		御神木の木管川御下り		
		丹羽郡大山町の状況		丹羽郡神職会
		海部郡に於ける状況		
		中島郡奥町の状況		
		名古屋市に於ける状況		
		軍太子殿下の伊勢神宮御参拝		
		軍太子殿下御渡御祈願祭		
		現海郡神職会		
		寶鏡郡各町村長は神職会と協議し、郡内全神社(無各社共)へ常額料を貸し、祈願文を奉じ御渡御の平安を祈りたるが青年会員、在郷軍人会員、学校児童等参拝せり。		
		東加茂郡神職会		
		南設楽郡神職会		
		軍太子殿下御下流海陸御安全祈願祝詞		
		五県連合神職会打合せ		
		神職養成部卒業式		
		愛知国学院講習所		
		愛知国学院入学式		
		実行委員会開催		
		内務省主催神職講習会		
		代議員会		
		軍信副会長送別会		
		大正十年度収支予算		
		大正十年度特別会計		
		大正八年度収支決算書		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会		
		皇道講演会		
		卒業報告祭		
		明治神宮参拝		
		丹羽郡通信		
		現海郡通信		
		八名郡通信		
		大谷基金		
		現海郡神職会予算		
		祭服調整費支給		
		愛知郡神職会		
		八名郡神職会大正十年度経費収支予算		
		神社一万円基本財産蓄積申告規約		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会開催		
		氏子総代会開催		
		感謝状贈呈		
		明治神宮御鎮座祭記念事業		
		君を送る日		
		温故資料(第十二)		村木鶴治郎
		大正十年十一月告示第一二二号同第一一三号ヲ以テ左ノ通り神額幣料及会前指定神社ト定メラレタリ		
		神社昇格御社補頭社ハ大正十年三月二十六日告示第一五四号ヲ以テ左記ノ通り昇格セリ		
		鈴木信比古氏逝去奥社那古野社々司官察招魂社神官にして多年斯道の為め尽瘁せられたる同氏は四月十八日逝去せられ同月二十一日自宅出棺八事神葬墓所に埋葬せりと		
327号	大正12年6月1日	謹感敬謝		上田萬年
		摂政宮殿下と見己心		堀内文太郎
		フラスコチ一岡		田中義一
		現海半島は古の文化		山内敏行
		歌つと		村上義繁
		昇格神社の由緒		
		代議員開催		
		大正十二年度愛知県神職会収支予算書		
		大正十二年度特別会計愛知国学院収支予算書		
		大正十年度愛知県神職会収支決算書		
		大正十年度特別会計愛知国学院収支決算書		
		愛知国学院卒業式		
		愛知国学院入学試験		
		愛知国学院校舎新築		
		愛知国学院校舎建設費寄附金		
		司業試験		
		講習会開催		
		講師囑託第七回総会に於て各都市に講師設置の件協議決定の如今回式記氏名を本会講師として囑託せり		
		講師打合せ		
		現海郡神職会		
		現海郡神職会		
		昇格神社		
		史蹟名勝天然記念物指定		
		国宝指定		
		府県社以下神社ノ神額幣料供進ニ関スル件中改正ノ件		
		本会書記更迭		

		同窓会記事同窓会設立打合せ	同窓会設立打合せ			
328号	大正13年1月1日	叙任辞令	叙任辞令 證書 新所御告文 皇宮御告文 神諭御告文 内閣告諭 関東大震災 関東地方震災遺難死亡者慰霊祭 三殿下拝詞 関東大震災死亡者慰霊祭詞 吊詞 関東地方震災死亡者氏名 臨時代議員会開催 罹災同僚神職救済義捐金 各県神職会謝状 罹災者救助 罹災者救助古着古本具/他目録 慰霊祭録収支決算報告 救世江口宗義氏安返 震災と外圍の同情 帝都復興議案官制 帝都復興院官制 大震災に発布された諸法令 首相並に内相に建議 漢語			震災記念号
330号	大正13年8月10日	叙任辞令	叙任辞令 国民精神作興に関する詔書原義		宮地直一 安岡正篤	
		講演	国史の特性 天皇と閣内大臣			
		雑報	愛知県神職会第九回総会開催 副総裁推薦報告 愛知県神職会総裁訓示 式辞 大正十一年度愛知県神職会収支決算書 大正十一年度特別会計愛知県収支決算書 大正十三年度愛知県神職会収支予算書 大正十三年度特別会計愛知県学院収支予算書 大正十二年度代議員会議事録 学院司業試験並二祝詞祭式検定試験 学院一等司業受験問題 学院二等司業受験問題 祝詞から祝意へ 夏期講習会 尾形神社 額田郡神職会懇談会順序 皇典講究所改選 小橋会長兼任 全国神職会通達会 中部五県連合神職会 奉告祭祝詞 国幣中社大縣神社より参裡に付いて 宇田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 森田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 国学院入学試験 国学院卒業式並二同窓会 漢語 答辞			
		各地通信	額田郡神職会懇談会順序 皇典講究所改選 小橋会長兼任 全国神職会通達会 中部五県連合神職会 奉告祭祝詞			
		国学院記事	国幣中社大縣神社より参裡に付いて 宇田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 森田尋常高等小学校職員原重朝日参拜式次第 国学院入学試験 国学院卒業式並二同窓会 漢語 答辞			
331号	大正13年10月27日	叙任辞令	叙任辞令		野田晋蔵	
		巻頭	国民精神作興詔書 謹詠			
		訓令	額田郡神職会第二回臨時会 神宮神職/額田郡神職/二件一關シ依命議談			
		論説	航海学説		市川建堂 市川建堂	
		寄書	相讃考 県内昇格神社 指定特別寄附 斯界片々 神諭院問題の其後 関東地方大震災遺難死亡者吊慰一週祭 名古屋市神職会関東震災死亡者一週年慰霊祭 三殿下拝詞 慰霊祭詞 祭文 吊詞 弔詞 震災死亡者一週年慰霊祭式次第			
		各地通信	知多郡神職会にては容月十六日より十八日迄三日間八幡村第二尋常小学校に於て左記の通り夏期講習会を開催した。 寶條郡神職会は一郡一郡連合にて国学院大学講師青戸浪江氏を招聘し八月二十三日より五日間郡御連南郡小学校に於て祭式作業講習会を開催し由名古屋神職会では八月十八日から二十四日迄一週間の予定で雑祭式の講習を愛知県学院に於て開催した因に講師は平岡好文氏である。 丹羽西春日井の両郡神職会にては今夏連合にて伊勢神宮皇学館教授鈴木福幸氏を招聘し講習会を開催した。			
		業報	碧海郡神職会主催にて郡内青年幹部講習会を開催し加藤陸軍少将野田神田宮司秋田健會(常司)等講師として招聘せられたり。 府県以下神社其他に對する各附者行員の件 国民精神作興講習會 愛知県学院記事敬神思想鼓吹夏期講演会終了 雑祭式統一講習會			
		文苑	和歌			
		彙報	愛知県学院同窓会規則			
332号	大正14年2月15日	叙任辞令	叙任辞令			
		巻頭言	大正十四年の新春を迎ふ			
		序	序			
		論説	宗廟の基調		芝田敏心	
		寄書	相讃考 大正十三年度本会事業概況報告 大正十三年度愛知県学院事業概況報告		市川建堂	
		雑録	和歌 本会役員更迭 学院試験問題 十牛の語 牛の古來といふ伝説 小橋会長挨拶要旨 全国神職協議会議事報告 全国神職会沿革史編纂に就て 全国神職会幹部総辞職 皇典講究所			
		勅令及省令	勅令第二八五号 勅令第二八六号 勅令第二八七号 勅令第二九二号 勅令第二九三号 勅令第二九四号 勅令第二九五号 内務省令第二八号 大正十三年八月以降ニ於ケル県内昇格神社ノ如シ			
		告示	内務省告示第七六六号			
		叙任辞令	叙任辞令			
336号	昭和2年6月25日	巻頭言	国民精神と史蹟の保存		足立取 土屋純一	
		講演	氏子の制度に就て 神社建築に就て 氏子総代会概況 神職会総会概況			
		時報	昭和元年度愛知県神職会事業報告 東海五県連合神職会概況 全国神職会評議会概況 総務部副総裁更迭 夏季講習会開催 祭式講習會			
		雑報	史蹟名勝天然記念物資料展覧会状況 古墳其他埋蔵物発見のときの取扱 慰霊祭 尾形神社			

		業報	愛知国学院卒業生小学校教員及学際検定成績 巡回講演会 寶飯の古城址 環形村の神前村会			
		任免辞令 文苑	文苑			
337号	昭和2年9月15日	講演	内親王殿下御降臨奉祝 庄子の制度に就て(承前) 香濃に依る県議員の総選挙 香濃の憲法と選挙人の自覚 地方長官會議に於ける内務大臣の訓示要旨 宇野部長會議に於ける榎木内務大臣の訓示要旨		足立取 内藤金三	
		時報	神宮大庭並屠備布儀旨 神宮大庭並屠備の趣旨 臨時代議員会開催 神社制度調査会設立 夏季講習会概況 本会副会長及理事更迭 県社以下神社に於ける収支予算式に就て 神前結納のすゝめ附録談の紹介			新美鑑一
		雑報	氏子総代会 神社氏子並崇敬者総代会議事項 神社年度別一本紋装束講習会状況 熱田神宮増築拡張整理事業の概要 塚功奉告祭並に塚功式 神馬御賽進 昇格神社 神楽講習会状況			
		業報	寶飯の古城址(その五) 神職高等試験施行 学際検定試験執行 祝詞祭式検定 新嘗祭穀倉橋種式状況 内親王殿下御降臨奉告祭		生田小平次	
		任免辞令 文苑	任免辞令 文苑			
338号	昭和3年2月25日	講演	中村副総裁を語る 別宮副総裁を語る 神社建築に就て 官幣神社以下神社の管理者たる神職の社務引継順序に就て 官国幣社以下神社祭式改正 神宮大庭及屠備布式 神宮大庭及屠備布に関する件議 神宮大庭及屠備布規約参考事項 郡市神職会大庭及屠備布式 宇野司業並祝詞祭式検定試験 祭式講習会 典札会議 本会通堂代議員会 昭和三年度愛知県神職会収支予算書 大正十五年度愛知県神職会収支決算書 大正十五年度愛知県学院収支決算書		土屋純一 愛知県社寺係	
		時報	御大禮御期日発表 単天御降臨奉告祭 大正天皇御一十年祭の件通議 南政愛知神職会祭式講習会開催 八名郡神職会子孫会 幡豆郡神職会の総会 事務研究会主催 愛知国学院武神祭執行 県社以下神社収支決算書格別総論 県社以下神社収支決算書格別平均総論 寶飯の古城址(その六) 昭和三年度神宮宇野館普通生徒募集要項 太曾川堤		生田小平次	
		史蹟名勝	小牧山 二子古墳 坂小川古墳			
		神社昇格	神社昇格 神樂常景料供進指定神社			
		叙任辞令 叙任辞令 叙任辞令 文苑	叙任辞令 叙任辞令 叙任辞令 文苑			
339号	昭和3年6月15日	養訓之辞	財団法人設立に就て			
		神社事務主任官 打合せ訓示	内務次官訓示			
		論説	神社局長訓示 思想的困難解決の現地 諏訪田諸祭儀の祭神に就きて 本会財団法人設立許可 神職待遇二問三答 第十三回愛知県神職会総会 五原連合神職会総会 全国神職会総議員会 鈴木前内務大臣の遺著 武進長久折蘭祭 氏子並崇敬者総代会		一善生 生田小平次	
		時報				
		雑報		北設楽郡 岡崎市 知多郡		
		業報	愛知国学院入学状況 宇野司業証及教員免許状授与式 講師及新任教師異動 御大典記念事業 学校神饌田の設置 本会役員異動 寶飯の古城址(その七)		生田小平次	
		神社昇格	神社昇格 神樂常景料供進指定神社			
		任免辞令 養訓之辞	任免辞令 養訓之辞			
340号	昭和3年10月25日	講演	神宮大庭と屠に就て 神職の奉告に就て 学務部長会議 望月内相訓示 代議員選出 代議員会状況 調査委員報告 郡市神職会長會議 取神婦人会組織 夏期講習会概況 御即位式と大嘗祭の趣旨		吉田茂	
		業報	法令の改正 神樂常景料供進指定 神社ノ移転合併 御嘗祭 御大禮諸儀式御日取 第一日ノ地方謁宴 大正奉祝歌謡詞 御法部諸司 神社に於ける御大典記念事業に案する件 御大典記念事業 愛知県内に於ける神社と國家及特別保護建造物 寶飯の古城址(その八) 即位礼大嘗祭に関する通議	昭和3年5月29日内務省令第20号によりて大正2年4月内務省令第6号が改正		生田小平次
		任免辞令 文苑	任免辞令 文苑			
341号	昭和4年2月25日	講演	御即位礼勅語 田中総理大臣奏上の奏詞 神國日本国民の大覚悟 鎌倉の研究 神社財産の登録手続に就て 教育に関する御沙汰と文部大臣の訓令 即位礼及大嘗祭祭記令 大嘗祭参向日割 全国神職会概況 本会代議員会 神宮大庭及屠備布式		矢野藤山 生田小平次 県社寺係	

		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第二編)	自治公共に関する諸祭之祝詞 学事に関する諸祭之祝詞 軍事に関する諸祭之祝詞			
348号	昭和6年7月5日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		講演	神社对宗教問題私見(承前)			加藤玄智 倉地定	
		論説	神職の社会使命に就て 国体闡明の急務 惟神会設置に就て			井田鏡次郎 名倉正三郎	
		時報	内務大臣の訓示と指示 第三回愛知県神職会総会 中部五県連合神職会 全国神職会評議員会 官司該合会と社司社業該合会 愛知県神職会 愛知国学院卒業式 愛知国学院生徒入学の状況	昭和六年度地方団体提出議案			
		業報	文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物 三重県神職会主催神修養講習会を觀るの記 孔聖節規定 八名郡神社氏子総代会 宇野司業証及教員免許状授与 物故神職の慰霊祭 新嘗祭供御献物の件 専任及兼任講師異動 神社並家庭神拝詞及作法 皇典講究所学附試験問題			杉浦定之助	
		神社昇格	神社昇格				
		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第三編)	軍事に関する諸祭之祝詞 産業其他生業に関する諸祭之祝詞 公私団体に関する諸祭之祝詞			
349号	昭和6年10月30日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		講演	神社对宗教問題私見(承前)			加藤玄智 高松定久	
		論説	神の道(其二) 砥鹿神社の社会的事業(一) 参宮團に参加して 城義彰所談			朱田部盛枝 大木博夫 中野周次郎	
		時報	元寇弘安の役六百五十年記念祭 八名郡氏子総代会 東三郡二郡連合神職講習会概況				
		業報	神社崇敬觀念の強化並崇敬者の維持若は増加に就て 御所に香坂本県知事を迎へて 文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物			天野直松	
		神社別格	神社別格				
		文苑	文苑				
		任命辞令	任命辞令				
		附録	諸祭之祝詞集(第四編)	公私団体に関する諸祭之祝詞 人事に関する諸祭之祝詞			
350号	昭和7年2月25日	奏頭之辞	奏頭之辞				特殊神事特集号
		特殊慣行神事	花の境(豊年祭) 一宮の桃花祭 津島の提灯祭 岩塚の御田祭(杵コサ祭) 尾張富士の石上祭 天下の奇観 泉の豊年祭 国府宮の禊祭(開運祭) 砥鹿神社の早祭其他の行事 猿投神社に於ける禊の事 北設楽郡の花祭 現下の國情と國民の覚悟 伊良古大給言と敬神 神の道(承前) 指念の力	熱田神宮特殊神事 喜清田神社特殊神事 津島神社特殊神事 七所社特殊神事 尾張富士浅間神社特殊神事 田島神社特殊神事 尾張大國霊神社 神明社 猿投神社	泉田荒吉 小林木十郎 今澤昇 吉田盛清 村瀬要 大河原昌勝 松浦比太郎 平石五十次 近藤仙次郎 村松正夫 今澤昇 天野直松 高松定久 井田清臣		
		論説					
		時報	本会代議員会 国威尊厳初詣祭 福宮大庭屋布式 第五回氏子総代会 宇野司業并祝詞祭式検定試験施行				
		業報	寶飯郡の大庭屋布式及氏子崇敬者総代会 八名郡の大庭屋布式及第五回氏子総代会 岡崎市神職会の大庭屋布式其他 丹波郡神職会の大庭屋布式及其他的行事 北設楽郡神職会の神社該合会 本会副会長更迭				
		研究資料	寶飯の古城址(其の九)			生田小平次	
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	勳顯「鳴鶴齋」 昭和七年麻秋月次兼語 保存協会へ入会の御勧め				
		叙任辞令	叙任辞令				
		奏頭之辞	奏頭之辞				
351号	昭和7年7月20日	論説	神社存立の理由 神社法令の遵守に忠實なれ 砥鹿神社の社会的事業(其二) 度津の渡に就いて			神山栄 河原清一 矢田部盛枝 生田小平次	
		特殊神事並慣行 行事	神戸の寝祭 七福神隨附八幡神社の山伏祭文 花の境神事			川澄才 生田小平次 山本浦三郎	
		時報	全国神職会評議員会 官司該合会と社司社業該合会 東海中部五県連合神職会総会 第四回愛知県神職会総会 物故神職の慰霊祭 支那事変戦病死者慰霊祭				
		業報	文部省指定愛知県の史蹟名蹟天然記念物 神社祭式講習会 県外神社視察状況 碧海郡神職会主催御神田品評会 寶飯郡神職会の神居に対する奉仕状況 愛知国学院入学其他の状況 祭式講習会 雅楽講習会			倉地宏	
		業報	本会神職其他篤行者表彰規定制定 愛知県神職歓迎会 神社の火災防止に就て				
		神社昇格	神社昇格				
		文苑	文苑				
		叙任辞令	叙任辞令				
		附録	雑祭式行事摘要	地鎮祭、上棟祭、結婚式、葬儀式、渡橋式、除幕式(附招魂祭)、田植式、初穂式			
352号	昭和7年10月20日	奏頭之辞	奏頭之辞				
		論説	神の道(承前) 國恥國辱 神職の向上に就て			高松定久 中島兵治郎 市川佐一郎	
		講演	祝詞式講義			佐伯有義 倉内倉吉	
		特殊慣行神事	山本内務大臣の訓示と指示 山本内務大臣の訓示並指示要旨				
		時報	本会代議員選出 本会代議員会状況 夏期講習会概況 出動軍人武運長久祈願祭執行 熱田神宮位殿地鎮祭 福宮郡神職会の講習会 市二郡聯合夏季講習会概況 青年幹部講習会 寶飯郡神職会の国威宣揚並在滞支軍人武運長久祈願祭 丹波郡神職会の講習				
		業報	全国神職会館完成 額田郡神社該完成 伊勢神宮神衣御料献納に就て 江木全国神職会長の逝去を悼む 暖火雨談			邊語子	
		雜報					

		神社昇格 文苑 叙任辞令	神社昇格 文苑 叙任辞令			
353号	昭和7年12月25日	巻頭之辞 論説 講演 特殊慣行神事 時報 業報 雑報 神社昇格 叙任辞令	巻頭之辞 神社本来の意義と其の機能 神道の 原理と信仰と(一) 招詞作文法講話 神社建築に就て 大山の三光祭 郡市神職会長会議 神宮大庭及層布式 第六回氏子総代会 熊田神宮成願遷座祭 八名郡大庭及層布式並氏子総代会 丹羽郡大庭及層布式並氏子総代会 学園誌録執行 新年御願 吉川理事の訃 相森八幡社と氏子 愛知県民大会 対連盟愛知県民大会発起人挨拶 本会理事異動 氏子総代会議案制定 愛知国学院生徒の早学旅行 日常生活の心得草 厚張神名帳集録本の訂正増刷 昭和八年度 神宮皇学館普通科生徒募集要項		梅本寛一 青原博見 依伯有義 日比野安喜良 定盛建太郎	
354号	昭和8年3月15日	巻頭之辞 論説 特殊慣行神事 時報 業報 雑報 神社昇格 叙任辞令	巻頭之辞 神道の 原理と信仰と(二) 社会浄化と神道 自力更生と敬神 那古野神社の車樂に就て 福豆郡のテンテコ祭 本会代議員会 福豆郡の慰霊祭並氏子総代会 北設楽郡の神職及主礼懇談会 自力更生に邁進せる補習学校生徒 仮臨神社敬神婦人会総会 自会会報 愛知国学院卒業生状況 折年祭供進奉向 愛知県国防義会設立 対連盟愛知県民大会 神社功労者表彰 愛知国学院卒業式 聖典講究所主催講習会中止 名古屋地方招魂祭		吉原博見 倉地照雄 井田敏次郎 水野淺茅 名倉三郎	
355号	昭和8年6月20日	巻頭之辞 論説 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 叙任辞令	国際連盟離脱に際して発表された聖詔 内閣総理大臣の告諭 愛知県知事の訓令 神の道(承前) 心と物(自力更生は敬神要生に他ならず) 祭を講ずるの途上に 大山祭 第五回愛知県神職会総会 物故神職の慰霊祭其他の状況 第八回全国神職会評議員会 滋州事変戦病死者慰霊祭 岡部中社其酒田神社本殿遷座祭 名古屋市の神職講習会 八名郡神職会の対峙運動 新嘗祭神職会の司成五輪並出動軍人武漢長久折願祭 丹羽郡神職会主催戦死者慰霊祭 新嘗祭献穀品播種式 海部郡農会の農神祭 国威宣揚折願祭並氏子総代会 東江小学校児童の巡行 愛知県人会開催 万葉講座開設予告		高松定久 豊国生 淺野桜魂生 倉地白旗	
356号	昭和8年9月15日	巻頭之辞 論説 説苑 講演 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 叙任辞令	巻頭之辞 正副総裁送迎之辞 神道管見 神道の存在に関する三観 非常時の意義と国民の覚悟 自力更生に対する所感 折前二十一日の社論 万葉集に現れたる厚張三河の歌(其の一) 東三河に於ける御神事管見 東海中郡五里連合神職会総会 学務部長会議 調査委員会近況 郡市神職会長会議 夏期講習会概況 政府県神事事務主任者会議 日本神職会第四回講習会に参加して 国家指定の伊賀八幡宮 知多郡の児童入学奉告祭 国学院大学万葉講座 八名郡神職会の夏期講習会 岡崎市の神社参拝子供会 神宮大庭及層布式七年度層布種類別員数表 豊橋市神職会主催夏期講習会 福豆郡の豊橋大学日本精神講座 神宮大庭及層布式 三河一宮本宮山敬神座談の一夜 寶飯郡神職会員の西日本著名神社参拝記 顕彰状及殉難相伝牌伝達式 新嘗祭献穀品播種式		鈴木義一 田澤嘉輔 天野直松 高崎正秀 生田小平次 砥鹿山人生 松浦此太郎	
357号	昭和8年12月20日	巻頭之辞 論説 講演 特殊神事 時報 業報 雑報 文苑 神社昇格 叙任辞令	「神ながらの道」の根本原理 神の道(承前) 神道と宗教 万葉集に現れたる厚張三河の歌(其二) 社会問題と神道 熊田神宮正月の特殊神事概観 神宮大庭及層布式 第七回氏子総代会 神宮大庭及層布式に關し本県よりの通議 滋州事変戦病死者慰霊祭 寶飯郡の大庭及層布式並氏子総代会 八名郡の大庭及層布式並氏子総代会 豊橋市の大庭及層布式並氏子総代会 丹羽郡の大庭及層布式並氏子総代会 瑞葉郡中部の大庭及層布式並氏子総代会 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其二) 熊田神宮講義 新嘗祭献穀品播種式 学園誌録執行 祝詞祭式檢定試験 瑞九祭献穀記録の跋 参宮の記 祝詞部上津具村郷社八幡神社参拝のすずめ 和歌 俳句		梅本寛一 高松定久 市川佐一郎 高崎正秀 鶴藤規太 高木好次 砥鹿山人生 天直生 川邊子	
358号	昭和9年3月15日	神社昇格 叙任辞令	神社昇格 叙任辞令	足助次郎重範公事蹟		

		<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 「神ながらの道」の根本原理(承前)</p> <p>講演 日本精神講座</p> <p>研究資料 尾張地方のイハワラに就いて</p> <p>時報 本会代議員会状況</p> <p>業報 瑞豆郡神職会の慰霊祭及氏子総代会 寶飯郡佐藤神社の敬神婦人会 額田郡神職会及岡崎市神職会連合主催の物故神職慰霊祭及氏子総代会 神社功勞者表彰 県外神社視察状況 富山県</p> <p>雑報 愛知県の市区町村社寺主任会議 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其の三) 知多郡成島町の敬神義談 津武中興六百年記念祭執行について</p> <p>文苑 和歌 漢詩</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	梅本喜一 河野省三 遠山正雄	
359号	昭和9年6月26日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神社と神祇(其の一)</p> <p>説苑 田江神社の宝物「聖像十哲」について</p> <p>講演 日本精神講座(承前)</p> <p>特殊神事 津島神社の奉饗祭</p> <p>時報 山本内相の訓示と指示 東海中部五県連合神職会総会 第六回愛知県神職会総会 第九回全国神職会評議員会 宮司談話会 全国社司研究会大会 物故神職の慰霊祭其他の状況 神職優遇の勅令公布</p> <p>業報 国幣中社大縣神社殿設祭 寶飯郡の満州派遣並在満軍人武運長久折願祭 国幣中社大縣神社昇格十五周年記念祭並功奉祝祭 知多郡の氏子総代会</p> <p>文苑 和歌 俳句 漢詩</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	生田小平次 渡邊松生 河野省三 国幣中社津島神社社務所	
360号	昭和9年10月15日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道</p> <p>説苑 田江神社の宝物「聖像十哲」について</p> <p>講演 敬神及軍人墓儀に就きて 日本精神講座(承前)</p> <p>時報 万葉集に現れたる尾三地方の歌(その三) 郡市神職会長会議 本会代議員選出 本会代議員会状況 府県社以下公費供進制度確立 湖州事業戦病没者慰霊祭 神社祭式講習会 三河神職員連大会 知多郡の在營兵武運長久折願祭 北設楽郡の神前結婚式研究会 北設楽郡の武運長久折願祭 瑞豆郡の事務研究会 碧海郡の青年幹部講習会 寶飯郡の神社事務講習会 知多郡三和村の氏子代議談会 寶飯郡神職会の非東海討議 豊橋市八名郡連合神職講習会概況 丹羽郡神職会第一回座談会 碧海郡の神社祭式普及 南設楽郡祭式伝習会 中島郡の在満出動将兵武運長久折願祭</p> <p>文苑 漢詩 和歌・俳句</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p> <p>附録 中国四国地方の神社参拝と名蹟史蹟視察の旅</p>	高松定久 津邊松生 生田小平次 河野省三 高崎正秀	
361号	昭和9年12月30日	<p>奉詔之辞 昭和九年を送る</p> <p>論説 副総裁と副会長を深り迎ふ 神道管見(其の二) 神道の発生と其の成立に就て</p> <p>講演 所感 神宮と国民の奉養について</p> <p>研究資料 万葉集に現れたる尾三地方の歌(その四) 予章の追加及更生に就て</p> <p>時報 郡市神職会長会議 神宮大庭及層飾布式 第八回県内神社氏子総代会 神宮大庭及層飾布に關し本県よりの講議</p> <p>業報 神宮大庭及層の備布状況 中国四国地方神社参拝同並名蹟古跡視察旅行 丹羽郡の大庭及層飾布式並氏子総代会 東加茂郡の大庭及層飾布式並氏子総代会 西加茂郡の大庭及層飾布式 豊橋市の大庭及層飾布式並氏子総代会 南設楽郡の大庭及層飾布式 名古屋市南区社教会創立総会 第二回全国神職会の講習会に出席して</p> <p>雑報 日本精神講座第七回講習会状況 新年動議 三河一宮本宮山敬神座談の一夜(其の四) 宇野司業検定試験旅行 祝詞祭式検定試験 三河一宮庶務神社主催神祇大講演会 愛知県國學院講師異動 神職備置</p> <p>文苑 漢詩 和歌 俳句</p> <p>供進指定神社 神領常置料供進指定神社</p> <p>任免辞令 任免辞令</p>	鈴木喜一 定磯天祐 阪本廣太郎 高崎正秀 新藤隆一	
362号	昭和10年3月15日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 神職と氏子崇敬者に就て</p> <p>講演 瑞穂隨想 「おまことば」の幽深味</p> <p>時報 本会代議員会状況 本会役員の変更</p> <p>業報 東春日井郡の在満将兵武運長久折願祭 神社功勞者表彰 神社へ公費供進の件 宇野祭概況 三河一宮賞授与式 大縣神社の殿設祭と大縣賞授与式 神職の心得に就て</p> <p>雑報 国史奉勸 神社参拝旅行日記 愛知県國防義会に就て</p> <p>文苑 漢詩 和歌 俳句</p> <p>神社昇格 神社昇格</p> <p>任免辞令 任免辞令</p> <p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 業務神社の奉仕に就て</p> <p>講演 上代尾張の文化と神社に就て 地方長官會議に於ける各大臣の訓示 学務部長會議に於ける内相の訓示 第一回全国神職大会 第十回全国神職会評議員会</p>	高松定久 加藤生 安里生 梅本喜一	3頁から16頁にかけて欠落 17頁から始まる
363号	昭和10年7月3日	<p>奉詔之辞 奉詔之辞</p> <p>論説 神の道(承前)</p> <p>説苑 業務神社の奉仕に就て</p> <p>講演 上代尾張の文化と神社に就て 地方長官會議に於ける各大臣の訓示 学務部長會議に於ける内相の訓示 第一回全国神職大会 第十回全国神職会評議員会</p>	高松定久 中川鏡風 丹羽敏治	

		時報	東海中郡五所連合神職大会 第七回愛知県神職会総会 宮司懇談会 本会副総裁送迎の辞 社司社奉祝詞 愛知国学院各業者其他の状況 県外神社視察状況 額田郡の在道将兵武運長久祈願祭 額田郡の神社事務研究会 知多郡の氏子奉祝者総代会 名古屋市内に於ける大楠公殉節六百年記念事業 物故神職の合祀祭其他の状況 名古屋東照宮の園定指定奉告祭 大楠公百年大祭奉祝会発表 新舞臺供御献酬田圃式神酒 岡崎市六所神社の園定指定奉告祭				
		文苑	和歌 俳句				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
364号	昭和10年9月23日			論告	論告第二号		
		論説	「まつり」の本義と実生活 儒教の日本精神に及ぼせる影響 神宮機殿神社と神御衣祭に就て 神社の経営に就て			梅本寛一 澤邊松生 天野直松 中川誠風	
		説苑	公費供進の制と神職 供進金に就ての希望 戦歿死者の科擧に就て 神明の靈縁に就て			森岡政一 村松治三郎 鳳山生 杉山滋寛	
		時報	本会代議員会 郡市神職会長会議				
		象報	神宮大庭及階の頒布状況 深妻郡の神社事務研究会 深妻郡の武運長久祈願祭 神宮大庭及階昭和九年頒布種類別員数表 八名郡の在道将兵武運長久祈願祭 丹羽郡の在道将兵武運長久祈願祭 深妻講習会開催 岡崎市の武運長久祈願祭 額田郡の初会並進式 北設楽郡神職の雑祭式講習会 北設楽郡の在道将兵武運長久祈願祭 知多郡神職会役員会 知多郡の重期講習会 東三神職連合会主催夏期講習会 名古屋市内神職会の遺書祈願祭 碧海郡の青年幹部講習会 幡豆郡の青年幹部講習会 東春日井郡の神道講習会				
		雑報	御陵墓及神社参拝路記 郷社佐藤神社を中心とする社会的施設 青年幹部講習会を載るの記 郷土の神社 郷土の神社 碧海郡神職会要学補助会規定 社会教育教化団体代表者協議会 全三河の月道大会 浜州軍要戦死者慰霊祭 明治神宮献詠会規則			石原淳一 生田小平次 杉浦定之助 小笠原正巳 藤江由雄	
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		供進指定神社	供進指定神社				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
365号	昭和10年12月23日			団休明復二閉スル声明 神社と神職(其の三) 水戸字久留米の初宮真木保臣 室の徳性に就いて 本邦結業の祖神を祀る天竹社 神宮機殿神社と神御衣祭に就て(承前) 神徳宣揚講演法について 神社の経営に就て基本財産蓄積(其二) 神明の靈縁に就て			生田小平次 澤邊松生 鈴木日出年 大河原昌勝 天野直松 武内明道 中川誠風 杉山滋寛
		時報	神宮大庭及階頒布式 大庭頒布の概況に関する通牒 会宮大庭及階頒布に關し本県の通牒 第九回県内神社氏子総代会 愛知国学院校舎増築 熱田神宮本殿遷座祭執行 津島神社仮殿遷座祭執行 丹羽郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 北設楽郡に於ける神前結婚式の普及と結婚改善の座談会 額田郡及岡崎市連合招魂祭状況 深妻郡の神樂殿及社務所新築奉告祭 寶飯郡の大庭及階頒布式並氏子総代会 西加茂郡の国民精神論週間奉告祭 南設楽郡の神宮大庭及階頒布式 県外神社視察状況 豊橋市の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 岡崎市の神宮大庭及階頒布式 西加茂郡の神宮大庭及階頒布式 八名郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 豊橋市に於ける団休明復講演会				
		象報	熱田神宮本殿遷座祭執行 津島神社仮殿遷座祭執行 丹羽郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 北設楽郡に於ける神前結婚式の普及と結婚改善の座談会 額田郡及岡崎市連合招魂祭状況 深妻郡の神樂殿及社務所新築奉告祭 寶飯郡の大庭及階頒布式並氏子総代会 西加茂郡の国民精神論週間奉告祭 南設楽郡の神宮大庭及階頒布式 県外神社視察状況 豊橋市の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 岡崎市の神宮大庭及階頒布式 西加茂郡の神宮大庭及階頒布式 八名郡の神宮大庭及階頒布式並氏子総代会 豊橋市に於ける団休明復講演会		鳥取県、島根県、千葉県、栃木県		
		雑報	三河神職月道大会の記 岡崎市神職会の給与金規程 官祭招魂社献詠会設立 東社環状神社の基本金造成方法設定				
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		神社昇格	神社昇格				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
366号	昭和11年4月22日			更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神像に就いて 神社中心と農山村の繁栄策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て			梅本寛一 高松定久 井田英次郎 中川誠風 森岡政一 生田小平次 杉山滋寛 丹羽敬治
		論説	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神像に就いて 神社中心と農山村の繁栄策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		説苑	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神像に就いて 神社中心と農山村の繁栄策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		講演	更道振肅に關し篠原本県知事は県下市町村長及各庁長へ四月六日訓第二六三号を以て左の訓令を發せられた 「サ」(塚)の觀念と家族精神 神の道(承前) 神明と神像に就いて 神社中心と農山村の繁栄策 祭祀の重大性に就いて 神社と神像(其の四) 神明の靈縁に就て				
		時報	本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社務局長理事員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡連誼一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並軍要戦死者慰霊祭 敬神の旅				鳳山生 鳳山生 齋藤幾三郎 村松治三郎 太田新之助
		象報	本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社務局長理事員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡連誼一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並軍要戦死者慰霊祭 敬神の旅				
		雑報	本会代議員会 本会理事会 愛知国学院校舎増築式 社務局長理事員懇談会 愛知国学院校舎増築工事竣工奉告祭執行 南設楽郡神職会主催大月会 新城町郷社富永神社の大月会 北設楽郡神職会総会 知多郡の敬神講演会 新年の初会合に参加して 小学生の敬神奉詠 北設楽郡連誼一覽 国威宣揚武運長久祈願祭並軍要戦死者慰霊祭 敬神の旅				
		文苑	漢詩 和歌 俳句				
		任免辞令	任免辞令				
		編修余録	編修余録				
		巻頭之辞	巻頭之辞				
367号	昭和11年7月15日						

	桑原全本会長を送る			
論説	我国上代の伝説及年紀に就いて			澤邊松生
特殊神事	集崎神前神社の潮干祭			成田昇三
	祭政一元の目覚			今泉鳳山
説苑	敬神と教育			定瀬天祐
	講話術に就いて			武内静清
時報	神験に就いて			杉山道貞
	第八回愛知県神職会総会			
	東海中部五県連合神職大会			
	全国神職会評議員会			
	第二回全国神職大会			
業報	漸内相の訓示と指示			
	物故神職会祀祭及重祭執行			
	知多郡八幡町の時局講演会			
	知多郡の氏子総代会			
	尾張八幡神社少年会葬会式			
	帝都の神社巡拝記			辻下春水
	本会役員異動			
雑報	新嘗祭献斎田島の掃掃祭及び御田掃祭			
	三宅友信公御即位神前奉告祭			
	北設楽郡の敬神奉祭			佐藤珍水
	県内小学校に於ける神棚及神祠奉置の状況			
	神棚又ハ神祠ノ設備ヲ有スル小學校数語			
	愛知県に於ける神社功勞者表彰			
	全国神職会に於ける神社功勞者表彰			
文苑	桑原翁漢別会			
	漢詩			
神社昇格	和歌			
	俳句			
神社昇格	神社昇格			
任免辞令	任免辞令			